

II. 進級と卒業の条件について【2007年度以降入学者】

(1) 学則の一部改正

2011年度より、「メディア技術基礎 (Web)」「メディア技術基礎 (ネットワーク・画像処理)」「メディア技術基礎 (3Dプログラミング)」は、創造技法プログラミング科目 E 系列に変更されます。
但し、2010年度以前に取得した単位は変更されません。

(2) 第 2 学年への進級

次の 2 条件を満たすと第 2 学年へ進級します。

- ① 入学後 2 学期以上在学し (休学期間を除く)、自由科目を除いて 30 単位以上修得すること。
- ② 次の所定の単位を、それぞれすべて修得すること。

総合政策学部		環境情報学部	
総合政策学の創造	2 単位	環境情報学の創造	2 単位
創造実践科目	2 単位以上	創造実践科目	2 単位以上
先端発見科目	2 単位以上	先端発見科目	2 単位以上

(3) 第 3 学年への進級

入学後 4 学期以上在学し (休学期間を除く)、自由科目を除いて 60 単位以上修得すると第 3 学年へ進級します。

(4) 第 4 学年への進級

次の 2 条件を満たすと第 4 学年へ進級します。

- ① 第 3 学年であり、かつ、入学後 6 学期以上在学 (休学期間を除く) すること。
- ② 次の所定の単位を、それぞれすべて修得すること。

総合政策学部		環境情報学部	
創造技法言語コミュニケーション科目 4 単位以上 ※ 1			
創造技法ナレッジスキル科目	4 単位以上	創造技法ナレッジスキル科目	4 単位以上
創造技法プログラミング科目	4 単位以上	創造技法プログラミング科目	8 単位以上 ※ 2
		*ただし 2 系列以上から 8 単位以上を修得すること	
創造技法ウェルネス科目	4 単位	創造技法ウェルネス科目	4 単位
*体育 1・体育 2・体育 3・心身ウェルネスのすべてを修得すること		*体育 1・体育 2・体育 3・心身ウェルネスのすべてを修得すること	
創造融発科目	2 単位以上	創造融発科目	2 単位以上
研究会 A または研究会 B	2 単位以上	研究会 A または研究会 B	2 単位以上

※ 1 以下の科目は、創造技法言語コミュニケーション科目の 4 単位に含めることができません。

プロジェクト英語 A, プロジェクト英語 B, プロジェクト英語 C, プロジェクト英語 D, 英語海外研修 A, 英語海外研修 B, ロシア語ベーシック 1, ロシア語ベーシック 2, イタリア語ベーシック 1, イタリア語ベーシック 2

※ 2 A 系列、B 系列、C 系列、D 系列、E 系列のうち、2 系列以上から 8 単位以上修得すること。系列は KEIO SFC GUIDE 2011 (講義案内) を参照してください。

(5) 卒業	<p>次の2つの条件を満たすと卒業になります。</p> <p>① 第4学年であり、かつ、入学後8学期以上在学（休学期間を除く）すること。</p> <p>② 「卒業プロジェクト2」（※3）を含め124単位以上を修得すること。</p> <p>ただし、次の単位は卒業に必要な124単位に含めることができません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由科目として修得したすべての単位 ・特設科目として修得した単位のうち、20単位を超えたもの ・他学部等設置科目として修得した単位（※4）や、入学後に他大学（留学など）などで履修および認定されて修得した単位の合計のうち、60単位を超えたもの <p>※3 「卒業プロジェクト2」を履修するためには、原則として「卒業プロジェクト1」を単位修得しなければなりません。</p> <p>※4 他学部等設置科目として修得する単位の中には、総合政策学部の学生は環境情報学部設置の先端導入科目および先端開拓科目、環境情報学部の学生は総合政策学部設置の先端導入科目および先端開拓科目が含まれます。</p>
(6) 処分退学	<p>学則第156条により、次の場合には退学処分となります。留意の上、履修計画をたててください。特に1学期間に履修できる単位には上限がありますので、病気等のやむをえない理由で履修できないときは、休学することなども考慮しましょう。</p> <p>【学部学則第156条（抜粋）】</p> <p>①同一学年に2年在学し、なお進級し得ない者または同一学部で8年在学し卒業し得ない者は退学させる。</p> <p>②前項の規定にかかわらず、総合政策学部および環境情報学部では、同一学年に4学期以上在学し、進級および卒業し得ない者は退学させる。</p> <p>③休学期間は、在学年数に算入しない。</p>
(7) 卒業延期	<p>卒業の条件（在学期間数と修得単位条件）を満たすと、それ以上の在学はできません。</p> <p>ただし、入学後8学期目の春学期終了時に卒業要件を満たす予定の9月入学生に限り、在学期間延長を願い出て許可を得られれば、引き続き秋学期も在学することができます。</p> <p>この場合、秋学期分の学費を納入し、秋学期に履修申告をしなければなりません。詳細については、7月頃に掲示にてお知らせいたしますので、注意してください。</p>
(8) 学士入学者	<p>入学後2学期以上在学し（休学期間を除く）、創造実践科目から2単位以上、創造融発科目から2単位以上、研究会Aまたは研究会Bから2単位以上を修得すると第4学年に進級します。</p>
① 第4学年への進級	
② 卒業	<p>次の3条件を満たすと卒業になります。</p> <p>① 入学後4学期以上在学すること（休学期間を除く）。</p> <p>② 「卒業プロジェクト2」（※5）を含め50単位以上を修得すること。</p> <p>ただし、次の単位は卒業に必要な50単位の中に含めることができません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由科目として修得した全ての単位 ・特設科目として修得した単位のうち、20単位を超えたもの ・他学部等設置科目として修得した単位（※6）や、入学後に他大学（留学など）などで履修および認定されて修得した単位の合計のうち、16単位を超えたもの <p>※5 「卒業プロジェクト2」を履修するためには、原則として「卒業プロジェクト1」を単位修得することが必要です。</p> <p>※6 他学部等設置科目として修得する単位の中には、総合政策学部の学生は環境情報学部設置の先端導入科目および先端開拓科目、環境情報学部の学生は総合政策学部設置の先端導入科目および先端開拓科目が含まれます。</p>

(9) 第2学年編入者

① 第3学年への進級

次の2条件を満たすと第3学年へ進級します。

- ① 編入学後2学期以上在学し（休学期間を除く）、自由科目を除いて60単位以上修得すること。
- ② 次の所定の単位を、それぞれすべて修得すること。

総合政策学部		環境情報学部	
総合政策学の創造	2単位	環境情報学の創造	2単位
創造実践科目	2単位以上	創造実践科目	2単位以上
先端発見科目	2単位以上	先端発見科目	2単位以上

② 第4学年への進級

次の2条件を満たすと第4学年へ進級します。

- ① 第3学年であり、かつ、編入学後4学期以上在学（休学期間を除く）すること。
- ② 次の所定の単位を、それぞれすべて修得すること。

総合政策学部		環境情報学部	
創造技法言語コミュニケーション科目	4単位以上 ※7		
創造技法ナレッジスキル科目	4単位以上	創造技法ナレッジスキル科目	4単位以上
創造技法プログラミング科目	4単位以上	創造技法プログラミング科目	8単位以上 ※8 *ただし2系列以上から8単位以上を修得すること
創造技法ウェルネス科目	4単位	創造技法ウェルネス科目	4単位
*体育1・体育2・体育3・心身ウェルネスすべて修得すること		*体育1・体育2・体育3・心身ウェルネスすべて修得すること	
創造融発科目	2単位以上	創造融発科目	2単位以上
研究会Aまたは研究会B	2単位以上	研究会Aまたは研究会B	2単位以上

※7 以下の科目は、創造技法言語コミュニケーション科目の4単位に含めることができません。

プロジェクト英語A, プロジェクト英語B, プロジェクト英語C, プロジェクト英語D, 英語海外研修A, 英語海外研修B, ロシア語ベーシック1, ロシア語ベーシック2, イタリア語ベーシック1, イタリア語ベーシック2

※8 A系列、B系列、C系列、D系列、E系列のうち、2系列以上から8単位以上修得すること。系列はKEIO SFC GUIDE 2011（講義案内）を参照してください。

③ 卒業

次の2つの条件を満たすと卒業になります。

- ① 第4学年であり、かつ、編入学後6学期以上在学（休学期間を除く）すること。
- ② 「卒業プロジェクト2」（※9）を含め124単位以上を修得すること。
ただし、次の単位は卒業に必要な124単位に含めることができません。
 - ・自由科目として修得したすべての単位
 - ・特設科目として修得した単位のうち、20単位を超えたもの
 - ・他学部等設置科目として修得した単位（※10）や、入学後に他大学（留学など）などで履修および認定されて修得した単位の合計のうち、60単位を超えたもの
- ※9 「卒業プロジェクト2」を履修するためには、原則として「卒業プロジェクト1」を単位修得しなければなりません。
- ※10 他学部等設置科目として修得する単位の中には、総合政策学部の学生は環境情報学部設置の先端導入科目および先端開拓科目、環境情報学部の学生は総合政策学部設置の先端導入科目および先端開拓科目が含まれます。

(10) ベトナムIT人材育成プロジェクトによる第3学年編入(環境情報学部)者
① 第4学年への進級

次の2条件を満たすと、第4学年へ進級します。

- ① 入学後2学期以上在学すること(休学期間を除く)。
- ② 「環境情報学の創造」2単位、「研究会A」または「研究会B」から2単位以上を修得すること。

科目履修にあたってはメンターと合意して決定すること。

② 卒業

次の2条件を満たすと、卒業になります。

- ① 入学後4学期以上在学すること(休学期間を除く)。
- ② 次の所定の単位を、それぞれすべて修得すること。
 - (A) 「研究会A」または「研究会B」から6単位以上を修得すること
 - (B) 「卒業プロジェクト1」2単位、「卒業プロジェクト2」2単位(※11)修得すること
 - (C) 「研究会A」、「研究会B」、「卒業プロジェクト1」、「卒業プロジェクト2」以外の科目の合計30単位以上修得することただし、次の単位は卒業に必要な30単位の中にも含めることができません。
 - ・自由科目として修得した全ての単位
 - ・特設科目として修得した単位のうち、20単位を超えたもの
 - ・「日本語スキル」として修得した単位のうち、4単位を超えたもの
 - ・他学部等設置科目(総合政策学部設置の先端導入科目および先端開拓科目を含む)として修得した単位(※12)や、入学後に他大学(留学など)などで履修および認定されて修得した単位の合計のうち、16単位を超えたもの

※11 「卒業プロジェクト2」を履修するためには、原則として「卒業プロジェクト1」を単位修得しなければなりません。

※12 他学部等設置科目として修得する単位の中には、環境情報学部の学生は総合政策学部設置の先端導入科目および先端開拓科目が含まれます。

科目の履修にあたってはメンターと合意して決定すること。メンターの指定した科目の単位が修得されていない場合には学士候補(「卒業プロジェクト1」の単位)と認めない。

Ⅲ. 進級と卒業の条件について【2006年度以前入学者】

(1) 第2学年への進級	入学後2学期以上在学し(休学期間を除く)、自由科目を除いて30単位以上修得すると第2学年へ進級します。
(2) 第3学年への進級	入学後4学期以上在学し(休学期間を除く)、自由科目を除いて60単位以上修得すると第3学年へ進級します。
(3) 第4学年への進級	第3学年であり、かつ入学後6学期以上在学した場合(休学期間を除く)、第4学年へ進級します。
(4) 卒業	次の2条件を満たすと卒業になります。 ① 第4学年であり、かつ、入学後8学期以上在学(休学期間を除く)すること。 ② 次の所定の単位を、それぞれすべて修得すること。

総合政策学部	環境情報学部
合計124単位以上	
ただし、次の単位は卒業に必要な124単位の中にも含めることはできません。 ・自由科目として修得した全ての単位 ・特設科目として修得した単位のうち、20単位を超えたもの ・他学部等設置科目として修得した単位(※1)や、入学後に他大学(留学など)などで履修および認定されて修得した単位の合計のうち、60単位を超えたもの	
旧外国語科目と創造技法言語コミュニケーション科目、英語基礎1、英語基礎2から10単位以上 ただし1言語で8単位以上、別言語で2単位以上	
旧情報技術科目、創造技法プログラミング科目、情報基礎、情報技術ワークショップから8単位以上	
旧ナレッジスキル科目、創造技法ナレッジスキル科目から4単位以上	
保健衛生または心身ウェルネス、体育Ⅰまたは体育1、体育Ⅱまたは体育2、体育Ⅲまたは体育3を4単位修得のこと	
2006年度以前に修得した旧専門科目(共通基盤科目、総合政策系科目、複合系科目) および2007年度以降に修得した総合政策先端導入科目、環境情報先端導入科目の合計で16単位以上	2006年度以前に修得した旧専門科目(共通基盤科目、環境情報系科目、複合系科目) および2007年度以降に修得した総合政策先端導入科目、環境情報先端導入科目の合計で16単位以上
2006年度以前に修得した旧クラスター科目(共通基盤科目、総合政策系科目、複合系科目) および2007年度以降に修得した総合政策先端開拓科目、環境情報先端開拓科目の合計で16単位以上	2006年度以前に修得した旧クラスター科目(共通基盤科目、環境情報系科目、複合系科目) および2007年度以降に修得した総合政策先端開拓科目、環境情報先端開拓科目の合計で16単位以上

※1 他学部等設置科目として修得する単位の中には、総合政策学部の学生は環境情報学部設置の先端導入科目および先端開拓科目、環境情報学部の学生は総合政策学部設置の先端導入科目および先端開拓科目が含まれます。

2006年度までに修得した専門科目、クラスター科目における単位カウントについて
「ナレッジスキル科目」や「情報技術科目」は、同じ科目が同時に専門科目やクラスター科目の「共通基盤科目」とされることがあるため、複数の科目種類に同時に属する科目は、それぞれの科目種類で卒業に必要な単位にも同時に含めることができます。ただし総単位数はその科目の単位分しか計算できないので、注意してください。

「ナレッジスキル科目」および「専門科目」としてカウントできる科目

多変量データ分析A	多変量データ分析B	統計データベース	統計言語
計量モデル	心理情報解析	テキスト意味空間分析	Webテキスト処理法

「ナレッジスキル科目」および「クラスター科目」としてカウントできる科目

現代数学	数理と現象	数値と近似	情報数学Ⅱ
数理モデルA	数理モデルB	多変量解析	時系列解析法
情報解析法	データベース構築法	知識データベース論	探索的モデリング

「情報技術科目」および「専門科目」としてカウントできる科目

システム・プログラミング	論理プログラミング	記号処理プログラミング	データ構造とプログラミング
ネットワークプログラミング	グラフィックスプログラミング	モバイルプログラミング	

(5) 処分退学

学則第156条により、次の場合には退学処分となります。留意の上、履修計画をたててください。特に1学期間で履修できる単位には上限がありますので、病気等のやむをえない理由で履修できないときは、休学することなども考慮しましょう。

【学部学則第156条（抜粋）】

- ①同一学年に2年在学し、なお進級し得ない者並びに同一学部に8年在学し卒業し得ない者は退学させる。
- ②前項の規定にかかわらず、総合政策学部・環境情報学部では、第1学年に4学期在学し第2学年に進級し得ない者、第2学年に4学期在学し第3学年に進級し得ない者、第3・第4学年併せて8学期在学し卒業し得ない者は退学させる。
- ③休学期間は在学年数に算入しない。

(6) 卒業延期

卒業の条件（在学期間数と修得単位条件）を満たすと、それ以上の在学はできません。

ただし、入学後8学期目の春学期終了時に卒業要件を満たす予定の9月入学生に限り、在学期間延長を願い出て許可を得られれば、引き続き秋学期も在学することができます。

この場合、秋学期分の学費を納入し、秋学期に履修申告をしなければなりません。詳細については、7月頃に掲示にてお知らせいたしますので、注意してください。

IV. 新入生のみなさんへ

(1) 新入生のみなさんへの メッセージ

みなさんがこれから履修する科目は、2007年度から始まった新しいカリキュラムにもとづいて設置されたものです。新しいカリキュラムでは、SFCのこれまでの「先端」性に加え、「創造」の軸が明示的に加わりました。具体的には、ものを生み出したり実践したりする経験を、学部のはじめの段階から何度も経験することで、自らアウトプットする能力を高めていくということです。つまり、これまでの「研究プロジェクト中心」というコンセプトをさらに進めるために、「創造」と「先端」の2本柱の科目が提供されるのです。とても重要なことなので、授業を選択・履修するときには、ぜひこのことを意識してみてください。

大学での学び・研究を「料理」に例えると、みなさんに求められているのは、自分なりの創作料理をつくる、ということです。提供される科目はあくまでも料理のための食材にすぎません。どのような食材をつかって何をつくるのか？——それは学生のみなさん一人ひとりが、考えていくことです。もちろん、いくつかコツはあります。先輩たちがどのような食材を選び、何をつくったのかを知ることは有益でしょう。また、メンターの先生に相談してみるのもよいでしょう。しかし、SFCでは決められたレシピというものはありません。やはり最後は、自分で考えるということが重要になります。

料理の例えで、もうひとつ重要なことがあります。先ほど、科目はあくまでも料理のための食材だ、といいました。そうなんです。食材を仕入れるだけでは、料理にはなりません。料理を「つくる」ことが必要なのです。SFCでは、みなさんは自分の“研究プロジェクト”に取り組むことが期待されています。そのために用意されている厨房が「研究会」という場です。ただ単に食材を集めてためておくのではなく、それを研究会の場で料理してみてください。そして最後には、大学生活をかけて磨いた腕をふるって、卒業プロジェクトに取り組みましょう。あなただけの創作料理、期待しています。

総合政策学部・環境情報学部のカリキュラムは、高い自由度で科目を履修できるようになってはいますが、将来、より自由に科目を履修するためにも、早期に履修を終えておくべきことが望ましい科目があります。

これらの科目は、他の発展的な科目を学ぶ上での基礎となる科目であり、SFCでの研究・学習上のビューを得るために有益な科目ばかりです。これらを履修せずに残しておく、学年が進んだときに、就職活動や研究活動、あるいはその時本当に履修したい科目を犠牲にしなければ、必修の単位履修が困難になってしまう可能性があります。2年次以降に後悔しないためにも、まずはこれらの科目を学習計画の中心に据え、できるだけ1年次に履修してください。

特にクラス指定がある科目などは、その同じ時限にある別の科目を履修したいばかりに履修を後回しにしたくなるものです。しかし、1年次に履修を済ませておくことが2年次以降大きなメリットになるはずですから、長期的視野のもとに履修計画を検討してください。

なお、それぞれの科目群の概要については、「I. カリキュラム」の「2. 科目群の趣旨と概要」の項と、『KEIO SFC GUIDE 2011（講義案内）』をよく読んでください。創造技法ナレッジスキル科目、創造技法プログラミング科目については、『KEIO SFC GUIDE 2011（講義案内）』に科目体系などの詳細について記載されていますので必ず目を通してください。

創造技法言語コミュニケーション科目については、『KEIO SFC GUIDE 2011（言語コミュニケーション科目履修案内）』をよく読み、入学後1学期目または2学期目から計画的に履修してください。

(2) 1年生必修科目
(2年生への進級条件)

科目の種類、単位	科 目
総合講座科目 2単位	総合政策学の創造 (総合政策学部生) 環境情報学の創造 (環境情報学部生)
創造実践科目 2単位以上	
先端発見科目 2単位以上	

(3) 1年生推奨科目

履修推奨時期	科目の種類、単位	科 目
入学1学期目	創造技法ウェルネス科目 各1単位	体育1 (実技・講義)
		心身ウェルネス
	リフレッシャー科目 ※2	情報基礎 ※1
入学2学期目	創造技法ウェルネス科目 各1単位	体育2 (実技・講義)、 体育3 (実技・講義)
	創造技法プログラミング科目 ※1	論理思考とプログラミング、 コンピュータ基礎とプログラミング のいずれか1科目
入学1学期目 or 2学期目	リフレッシャー科目 ※2	数学基礎、科学基礎 (地理学)、 科学基礎 (物理・化学)
	創造技法ナレッジスキル科目 ※3 各2単位	データ獲得法、データベース概論、 リサーチデザイン、データ分析、 モデリング・シミュレーション技法、 数理と社会、数学と論理、 線形の理論、変化の理論、 情報数学1のいずれか1科目
	創造技法言語コミュニケーション科目 ※4	

- ※1 『KEIO SFC GUIDE 2011 (講義案内)』の創造技法プログラミング科目のページを参照の上、履修計画を立ててください。
- ※2 リフレッシャー科目は、大学入学前の段階で不足している力を補うための科目です。講義案内をよく読み履修計画に必要であれば、履修をしてください。
- ※3 入学時に配布された「ナレッジスキル道案内」、『KEIO SFC GUIDE 2011 (講義案内)』の創造技法ナレッジスキル科目のページを参照の上、履修計画を立ててください。
- ※4 『KEIO SFC GUIDE 2011 (言語コミュニケーション科目履修案内)』を参照の上履修計画を立ててください。

(4) SFC-SFS

SFC-SFS (Site For Communication among Students, Faculty & Staff) は、学生の皆さんと教員、職員のコミュニケーション、学習・研究支援のためのシステムで、以下3つのコミュニケーションを支援します。

1. 授業に関するコミュニケーション
2. 卒業までの学習・研究プランに関するコミュニケーション
3. メンターとのコミュニケーション

入学後に発行される CNS アカウントとパスワードを取得後、<https://vu9.sfc.keio.ac.jp/sfc-sfs/> からログインしてみましょう。

学生の皆さんは、1学期に一度、自分のプロフィールや学習の目標設定、履修計画を SFC-SFS に入力し、メンターとの面談を行うことになっています。SFC-SFS に自分が記入したものやメンターとのやり取りは履歴として残りますので、「自分の考え方や興味の変化を追う」、「卒業までの学習・研究計画をさらに具体化させていく」など、様々な利用方法があります。

SFC-SFS では、Web履修申告までの間に、履修を希望する科目の時間割を作成する機能（履修申告は別途行わなければなりません）や、履修科目の担当教員や TA/SA へのメール送信、授業資料の閲覧、課題の提出などが可能です。操作方法は、SFC-SFS トップページにある「学生用マニュアル」に詳細が掲載されていますので、各自でダウンロードして使用してください。

(5) 授業調査

SFC-SFS を利用し、学期終わりに全科目一斉に全体調査を行います。全体調査期間中に、履修している授業すべてに回答してください。毎学期、継続的に全体調査を行うことにより、授業期間内での授業方法等の向上・情報の蓄積・統計の正確性・学生への情報源の確保等を目指しています。あわせて、全体調査に回答した学生の意見に対して、担当教員からのコメントが記入された上で、結果が公開（塾内限定）されます。

V. 授業について

<p>(1) 学事日程</p>	<p>SFCの学事日程は、春学期と秋学期の2学期により構成されています。</p> <p>春学期は、4月1日～9月21日まで、秋学期は、9月22日～翌年3月31日までです。次年度の学事日程は、12月上旬に塾生ホームページにてお知らせします。</p> <p>時間割において、曜日時限をあらかじめ指定している14回分の授業のほかに、授業の進捗度合いによって、月～金の6時限、補講日等に1回分の授業が開講されま す(任意設定講義)。授業の設定日については、掲示または各授業担当者の指示に従って ください。</p> <p>また、月曜日の授業回数が不足するため、実際の曜日にかかわらず「月曜代替講 義日」として、月曜日の時間割で授業を実施する場合があります。</p>
<p>(2) 休講・補講</p>	<p>止むを得ず授業が休講となる場合(月曜代替講義日を含む)は、原則として補講 を実施することとなり、土曜日あるいは指定の「補講日」に実施されます。</p> <p>休講・補講は、A館(本館)1階インフォメーションロビーに掲示します。</p> <p>塾生モバイル(http://m.gakuji.keio.ac.jp)や学事Webシステム(http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/)から、全キャンパスの休講補講情報を確認することができます。</p> <p>なお、公式の情報は大学の掲示板とします。休講補講情報は変更することがあり ますので、必ず直前に掲示板で確認するようにしてください。</p>
<p>(3) 緊急時における 授業の取扱い</p>	<p>政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合や、各種自然災害・大 規模な事故等による鉄道等交通機関の運行停止、その他緊急事態が発生した場合の 授業の取扱いは次のとおりとします。</p> <p>1. 政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合</p> <p>首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、政府や気象庁か ら「東海地震注意情報」が発せられた場合は、ただちに全学休校とします。なお、 地震が発生することなく「東海地震注意情報」が解除されたときの対応について は、ホームページ等を通じてお知らせします。</p> <p>2. 鉄道等交通機関の運行停止やその他緊急事態発生の場合</p> <p>台風・大雨・大雪・地震等の各種自然災害や大規模な事故等による鉄道等交通 機関の運行停止、その他緊急事態の発生により、休講措置をとらざるを得ない場 合はホームページ等を通じてお知らせします。</p> <p>SFC公式ウェブサイト http://www.sfc.keio.ac.jp/ 塾生ホームページ http://www.gakuji.keio.ac.jp/index.html</p> <p><その他の注意事項></p> <p>授業開始後に緊急事態が発生した場合は、状況により授業の短縮や早退など別 途措置を講じます。</p> <p>掲示や構内放送、上記のホームページによる大学からの指示に従ってください。</p>

(4) 全塾的行事における
授業の取扱い

1. 早慶野球戦当日の授業の取扱い

毎年、春学期は5月下旬～6月上旬、秋学期は10月下旬～11月上旬の土、日曜日に行われます。試合が行われる日の授業は応援のため休講とします。なお、看護医療学部の実習科目は平常通り開講します。ただし、雨等で中止となった場合は、平常通り授業を行います。

また、雨天順延、同点決勝等で月曜日に試合が行われる場合、その日の学部の授業は休講となりますが、大学院は平常通り授業を行います。火曜日以降の試合については、優勝がかかっている場合または優勝決定戦への進出がかかっている場合にかぎり、学部の授業は休講となります。

2. 三田祭期間の授業の取扱い

11月下旬に開催される三田祭期間（準備期間および後片付期間を含む）は、学部・大学院とも休講となります。なお、看護医療学部の実習科目は平常通り開講します。

3. その他

4月23日（開校記念日）と1月10日（福澤先生誕生記念日）は休校です。

注：いずれの場合も授業の取扱いに変更が生ずる場合は、掲示およびSFC公式ウェブサイト [<http://www.sfc.keio.ac.jp/>] の在学生向けページ「News」に掲載しますので十分注意してください。

(5) 裁判員候補者に選定された場合の取扱い

慶應義塾では、いわゆる「公欠」の制度はありません。裁判員候補者に選定され、授業の出欠に迷う場合は、事務室学事担当へご相談ください。なお、欠席が認められない場合がありますので、ご注意ください。

(6) 休校

下記の「休日」は、大学が休校となります。

春季・夏季・冬季休業の詳細は、掲示「学事日程」で確認をしてください。

休 日

- 1 日曜日
- 2 「国民の祝日に関する法律」で定められた休日
- 3 福澤先生誕生記念日（1月10日）
- 4 開校記念日（4月23日）
- 5 春季休業（2月下旬～3月下旬）
- 6 夏季休業（7月下旬～9月下旬）
- 7 冬季休業（12月下旬～翌年1月上旬）

VI. 履修申告方法

<p>(1) 履修申告とは</p>	<p>履修申告はその学期に履修する科目を登録するものであり、修学の意思を確認するものでもあります。事前にクラス指定のある科目も含めて、その学期に受講するすべての科目の履修申告を行わなければなりません。以下をよく読み、絶対に誤りのないように行ってください。</p> <p>なお、科目を登録せずに休学する場合は、P.88の「休学願」の項を参照の上、学習指導と相談し、あらかじめ所定の「休学願」を提出してください。「休学願」は履修申告後でも、春学期は5月末日、秋学期は11月末日まで提出することができます。</p>
<p>(2) 2011年度履修申告期間</p> <p>① 春学期</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>② 秋学期</p>	<p>期間：4月14日(木)10:00～4月15日(金)15:00 日吉設置共通授業科目（日吉キャンパス平成23年度講義要綱・シラバス参照）は日吉キャンパス在籍者の履修が優先のため履修申告できません。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>期間：10月5日(水)10:00～10月6日(木)15:00（予定） SFC／矢上：理工学部（教職科目除く）／看護医療学部 設置科目</p>
<p>(3) 履修申告における 注意事項</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 定められた期日に必ず履修申告してください。申告がない場合は、修学の意志が確認できないとして、学則第188条により退学に処せられることがあります。 ② その学期に履修する科目はすべて申告してください。クラス指定のある科目や、前の学期に履修希望登録をした場合も同様です。ただし、体育2、体育3については、一度履修申告をすると、単位を修得するまで学期をまたがって申告内容が有効となりますので、再度の申告は不要です。 ③ 履修申告期間後はいかなる理由があっても科目の追加、削除はできません。 ④ 履修申告していない科目（「履修申告科目確認表」に記載のない科目）は、試験を受けても一切無効であり、単位の修得はできません。 ⑤ 各学期における履修単位数の上限は20単位とし、自由科目を含めて30単位（「心身ウェルネス」、「体育1」、「体育2」、「体育3」を除く）です。P.57の「履修上限単位」を参照してください。 ⑥ 他学部の科目は、通年科目や秋学期開講科目も含め、春学期に申告します（矢上：理工学部設置科目（教職科目は除く）・看護医療学部設置科目を除く）。詳細は、「他キャンパスおよび看護医療学部設置科目の履修」の項（P.73）を確認してください。 春学期に履修申告したすべての科目（通年、秋学期開講も含む）が「履修申告科目確認表」に記載されているか、必ず確認をしてください。 ⑦ 履修科目の分野(科目の種類)は、「履修申告科目確認表」記載のものとなります。必ず確認してください。分野の変更は、履修申告修正期間のみ行えます。 ⑧ 時間割表の記載内容は、運用上、変更されることがあります。履修申告前に掲示およびWebのお知らせを必ず確認してください（学事Webシステムでは、変更が反映され、最新の情報になっていますので、配布された時間割表と異なる場合があります）。 ⑨ 履修申告は時間に余裕を持って行い、疑問がある場合は履修申告期間内に事務室学事担当窓口にて確認してください。電話での問い合わせは受け付けません。

<p>(4) 学事 Web システムによる履修申告</p> <p>① パスワード</p>	<p>システムを使用するには、学籍番号とパスワードが必要です。新入生には、学生証とともに「学事 Web システム初期パスワード」が配布されます。他人に知らせないようにするとともに、絶対に忘れないようにしてください。履修申告以外でも、登録科目の確認や休講補講情報の閲覧にも使用します。</p> <p>なお、パスワードはシステム上で変更可能です。</p>
<p>② パスワードを忘れた場合</p>	<p>学生証を持参のうえ、事務室学事担当窓口にて新しいパスワードを申請してください。なお、履修申告期間中は窓口の混雑が予想されますので、事前の申請を心がけてください。</p>
<p>③ 操作方法</p> <p>A. アクセス</p>	<p>http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/ にアクセスしてください。 携帯電話からは操作できません。</p>
<p>B. 注意事項</p>	<p>学事 Web システムの画面に記載されているシステムの使い方や注意事項を熟読してください。</p> <p>a. 履修申告科目を登録した後にエラーがある場合には、〈状態〉欄に「保留中」と表示されます。「保留中」で残っている科目は履修申告期間終了後に全て登録が取り消されます。</p> <p>b. 科目登録終了後、すべての科目の〈状態〉欄が「登録済」となっていることを確認したうえで、画面を控えとしてプリントアウトしておいてください。 HTML ファイル、Web アーカイブファイルとして保存しても構いません。 ただし、一度オフライン動作にし、ファイルを開き、きちんと保存されているかどうか確認してください。</p> <p>c. 履修申告期間中にも基本的には午前 4 時から 1 時間程度メンテナンスで学事 Web システムを停止しますが、詳細は塾生ホームページおよび掲示でお知らせします。 なお、期間内は何度でも申告内容の変更ができます。また、締め切り直前には動作が遅くなることがあります。</p>
<p>C. 新規履修申告科目なし</p>	<p>卒業に必要な単位をすでに取得済みの場合も、必ず 1 科目以上を履修申告しなければなりません。</p> <p>ただし、下記のいずれかの条件に該当し、かつ当該学期の科目を新規に履修申告しない学生は、必ず「新規履修申告科目なし」のボタンを押してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「体育 2」または「体育 3」を履修中であり、その他の科目の履修申告をする予定がない場合 ・春学期に他学部や諸研究所に設置されている科目（通年・秋学期科目）を履修申告しており、秋学期にはその他の科目の履修申告しない場合
<p>④ 履修科目の確認</p>	<p>履修申告で正しく登録された科目は、学事 Web システムを利用して再度確認することができます。ただし、春学期は 4 月下旬、秋学期は 10 月中旬に本人宛に送付する「履修申告科目確認表」で必ず最終確認を行ってください。</p>
<p>⑤ トラブル</p>	<p>万一、システムに大規模なトラブルがあった場合や稼働状況の変更があった場合、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塾生ホームページ：http://www.gakuji.keio.ac.jp/ ・SFC 公式ウェブサイト：http://www.sfc.keio.ac.jp/ の「在学生の方」SFC NEWS のページ ・A 館掲示板 <p>などでお知らせします。</p>

(5) 履修申告科目確認表
および履修申告修正期間

履修申告が登録されたら、申告した科目の確認のために「履修申告科目確認表」が、学生本人宛に郵送されます。(春学期：4月下旬、秋学期：10月中旬)

Web履修申告画面の控えと比較し、正しく申告が行われているかどうか必ず確認してください。申告内容が異なる場合や疑問点がある場合、「履修申告修正期間」に、送付された「履修申告科目確認表」を持参の上、事務室学事担当窓口で確認をしてください (Webでは修正作業は行えません)。

履修申告修正期間には、当該学期に履修申告した科目の分野の変更 (進級・卒業に必要な科目として履修申告した科目を自由科目に変更する。または、自由科目として履修申告した科目を進級・卒業に必要な科目に変更する) のみ可能です。新たな科目の追加、科目の削除はできません。

履修申告修正期間中に窓口で修正が行われない場合は、学習指導の判断により、修正を要する科目の削除 (超過申請の場合は任意科目の自由科目への変更あるいは削除) をします。学習指導の判断により修正、削除された科目は、一切変更できません。

履修申告修正期間中に手続きを完了しなかった場合、学則第144条の18および39により、単位を得られない等の不利益が生じることがあります。

この期間に確認を怠ったために生じた不利益については、大学側は一切責任を持ちません。履修申告修正期間経過後は確認が終了したものとみなします。

VII. 履 修

科目を履修するためには、各学期初めに履修申告を行わなければなりません。申告をしなかった科目については、単位は認められません。

(1) 履修者数制限

科目によっては、講義案内で、前提となる知識・スキル・履修前提科目などの履修条件を指定していることがあります。その場合は各自講義案内やシラバスをよく読んで、前提条件を満たしていることを確認して履修してください。授業内では、前提となる知識・スキルの内容は、改めて説明されません。履修者数制限をする科目はシラバスに記載されていますので、初回の授業には必ず出席しなければなりません。

(2) 履修上限単位

進級・卒業に関わる科目として1学期間に履修できる単位の上限は20単位とし、自由科目を含めて30単位とします。
ただし「心身ウェルネス」「体育1」「体育2」「体育3」の単位は履修上限単位の20単位（および自由科目を含めた30単位）には含まれません。
履修申告時にこの単位を超える申告をした場合、登録ができません。履修上限を厳守してください。
※履修上限を超えて申告した場合、履修申告終了後に学習指導が判断した科目を自由科目へ変更あるいは削除します。

(3) 各科目の単位数と

履修方法

① 単位および開講形態

すべての科目は、それぞれ春学期・秋学期の中で完結するよう開講されますが、科目によって取得できる単位数が異なります。
各科目における修得できる単位と主な開講形態は次のようになっています（1学期間は15週です）。

科 目	開講形態	単位数
通常の講義科目	週1回・1学期間	2単位
演習科目（特に指定がない場合）	週2回・1学期間	4単位
心身ウェルネス、基礎分子生物学1、 基礎分子生物学2、基礎分子生物学3、 基礎分子生物学4、生命情報解析、 生命分子機能、代謝システム工学、 メタボロミクス	週1回・1/2学期間	1単位
体育1	週1回・1学期間	1単位
体育2、体育3	各合計15回出席	各1単位
外国語ベーシック	週2回・1学期間	2単位
外国語インテンシブ	週4回・1学期間	4単位
英語基礎1、英語基礎2	週4回・1学期間	4単位

その他、卒業プロジェクト1、卒業プロジェクト2、卒業制作（2006年度以前入学者用）、特別研究プロジェクト、インターンシップ、外国語の海外研修など、通常の授業時間以外に行われる科目があります。

*各科目ごとの単位数は、P.37「科目一覧」および『KEIO SFC GUIDE 2011（講義案内）』でも確認できます。

大学設置基準による単位の扱いは、大学設置基準第六章第二十一条より以下のようになっています。

一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修

	<p>等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。</p> <p>A. 講義および演習については、十五時間から三十時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって一単位とする。</p> <p>B. 実験、実習および実技については、三十時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって一単位とする。</p> <p>C. 卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。</p>
<p>② 履修可能学期と学年</p>	<p>ほとんどの科目は、学年に関係なくいつでも履修することができます。これは、研究・学習上の必要性や、興味によって幅広い選択肢から履修を可能にしている、ということです。しかし、ただ単に自由に科目を選択すべきである、という意味ではありません。</p> <p>重要な基礎的科目でも、すでにその科目の内容を修得しているような場合は、1年生であってもさらにその上位的位置付けの科目から履修してもよいし、ある特定の分野では専門性を身に付けていても、別の分野では基礎から学ばなければならないような場合、4年生であっても入門的な科目を履修することができる、ということでもあります。</p> <p>ですから、まずは導入的な科目を視野に入れ、研究・学習上の必要性から履修計画をたててください。</p> <p>導入的な科目は、SFCのどの分野においても求められる最低限の知識・スキルの習得を目的としています。特に新入生は、P.49の「新入生のみなさんへ」を読み、最初の履修計画の中心にしてください。</p>
<p>③ 休暇期間中に行われる授業の履修</p>	<p>夏季・春季休暇期間中に行われる授業（海外研修、インターンシップ、特別研究プロジェクト、フィールド研究等）は、参加した直後の学期に必ず履修申告してください。</p>
<p>④ 履修科目選択の際の注意点</p> <p>A. クラス指定</p>	<p>体育1、情報基礎には、クラス指定があります。体育1はクラスを変更することはできません。新入生のクラス指定科目のクラスは、ガイダンス期間中にクラス一覧が配布されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆体育1 ◆情報基礎（変更が可能です。『KEIO SFC GUIDE 2011（講義案内）』の創造技法プログラミング科目のページを参照のこと） ◆心身ウェルネス（春学期は、学期前半が総合政策学部、後半が環境情報学部となっています）
<p>B. 事前履修希望(クラス)登録のある科目</p>	<p>下記の科目は前の学期などにあらかじめ履修希望の申請が必要です。この登録は、履修申告ではありませんので、履修学期には別途履修申告を行わなければなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆外国語インテンシブ1（各学期の初めに申請書を提出） ◆英語基礎1、プロジェクト英語A～D（各学期の初めにWeb事前登録） ◆情報基礎（クラス変更を希望する場合のみ）、情報技術ワークショップ、論理思考とプログラミング、コンピュータ基礎とプログラミング（希望履修学期の前学期末頃および各学期の初め 詳細は http://ipl.sfc.keio.ac.jp/ を参照のこと） ◆研究会A、研究会B（D. 研究会履修を参照のこと）
<p>C. 第1週目の授業</p>	<p>原則として、第1週授業前までにシラバスを確認し、SFC-SFSの授業調査結果なども参考にして履修計画を立て、シラバスを持参した上で、第1週目の授業に参加してください。履修科目の選択について迷う場合には、複数の教室を回ってもかまいませんが、それに伴って生じる不利益については、各科目の履修選抜方法を熟読の上、自身で回避してください（ただし、クラス指定や既にクラス分けされている科目については、この対象ではありません）。</p>

D. 研究会履修

研究会は、最も重要な科目です。是非、自分にもっとも適した研究会・研究テーマを選んでください。

- シラバス (URL: <http://vu.sfc.keio.ac.jp/project/>) :

前の学期中に開講される研究会シラバスが公開されます。

- 登録 :

シラバスをよく読み、必要に応じてオフィスアワーに担当教員から話を聞くなどして、慎重に研究会を選び、選抜方法に従ってください。

選抜の結果、履修許可を得た場合には、必ず履修申告をしてください。特に提出する書類はありませんが、許可を得ていない場合、履修申告をしても無効になります。研究会は自由科目での履修を含めて2つまで履修申告することができます。

- タイプ :

研究会A・研究会Bの2種類があり、教員によってタイプが異なります(ただし1教員が学期内で異なる2つのタイプの研究会を開講することはありません)。

タイプ	開講	単位	受入人数の目安
A型	週2回	4単位	35名
B型	週1回	2単位	15名

- 履修可能学期 :

原則として9月入学生も含め、2年生から1学期間に2つまで履修申告できます。ただし、研究会Aを1学期間に2つ履修申告することはできません。なお、1年生であっても、担当者に特に認められた場合は1学期間に1つだけ履修することもできます。

E. 特別研究
プロジェクト

研究会を担当している教員による、学期中ではできないような研究を夏季・春季休暇期間中に集中して行う科目です。参加した直後の学期に必ず履修申告を行ってください。当該学期に進級・卒業に必要な単位として履修申告できるのは2単位(1科目)です。2科目履修する場合は、1科目を自由科目として履修申告してください。ただし、参加した直後の学期に留学・休学等で在籍しない場合は履修申告が認められません。

F. 卒業プロジェクト1、卒業プロジェクト2

2007年度以降入学者用

卒業プロジェクトは、これまでSFCで培ってきた創造性と先端性を駆使し、卒業に向けて、研究成果を生み出すプロジェクトを自ら推進するもので、原則として第4学年で履修します。自らの研究として取り組んできた各種プロジェクトをまとめ上げる段階であり、通常は2学期間以上かけてメンターとの対話を行いながら進めます。

プロジェクトにおいては、古い知の伝達は目的ではありません。書籍や論文やインターネットを通じて、いつでも最新の知にアクセスすることができますが、そこには書かれていない、そして誰も論じていない知を求め、実践し、未来を創造していくことが、SFCにおける研究です。学んだことの内容で勝負するのではなく、学び、高め、究め続ける能力を身につけ、自分の人生とより良き社会をプロデュースできる人材の輩出をSFCは目指しており、その能力の獲得を証明する方法が卒業プロジェクトです。

卒業プロジェクト1:

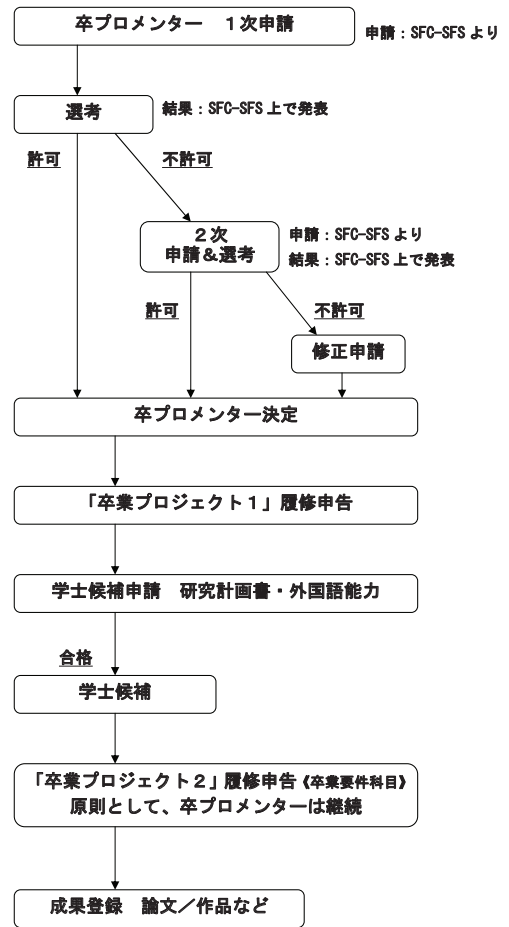
研究計画書や研究を遂行するにあたって必要となる外国語能力の評価・認定を受け、合格すると「学士候補」になります。

卒業プロジェクト2:

学士候補になると履修が認められます。論文や作品など実際の研究成果物を作成し、評価・認定を受けます。

【注意事項】

- ・「卒業プロジェクト2」は卒業要件ですが、履修するためには、原則として「卒業プロジェクト1」を単位修得しなければなりません。
- ・4年生での卒業プロジェクトを念頭に、なるべく早い段階から、卒プロメンターの選定や外国語の学習を始めておく必要があります。
- ・申請方法や日程等の詳細は、掲示およびSFC公式ウェブサイトでお知らせします。



G. 卒業制作

2006年度以前入学者用

・履修可能時期：在籍の最終学期にあたる4年生

・履修条件：

必ず研究会A，研究会Bのいずれかを同時に履修し、履修した研究会の担当教員1名から許可を受け、指導を受ける必要があります。

・成果公開：

この科目を履修した学生は、その学期の最後に研究成果を論文や作品として提出しなければなりません。

グループで研究している場合でも、卒業制作は各個人で作成したものを提出する必要があります。また、各自の研究、制作に対する寄与が明確にわかるよう作成してください。

H. 海外研修

海外研修科目への参加申込方法は各外国語研究室に確認してください。参加前に誓約書を必ず提出し、参加した直後に**必ず履修申告を行わなければなりません**。この時期以外の履修申告は一切認められません。また、卒業に必要な単位として履修申告する場合は、各学期における履修上限単位数20単位に含めなければなりません（自由科目として申告することも可能です）。海外研修の時期・内容に関しては、『KEIO SFC GUIDE 2011（講義案内）』の各言語のページおよび各言語のホームページを参照してください。

I. TTCK
開講科目

慶應義塾大学鶴岡タウンキャンパス（以下TTCK）にて開講されている授業科目（遠隔授業を除く）は、バイオキャンプに参加している学生のみが履修申告できます。時間割表において「TTCK開講科目」と明記します。履修申告の際には、開講場所に注意してください（バイオキャンプに関しては、P. 79を参照）。

J. 大学院先取科目

政策・メディア研究科の「プログラム科目（2006年度までは研究領域科目）」（学部併設科目を除く）を在学中に修得し、卒業後に政策・メディア研究科に進学した場合、8単位を限度として政策・メディア研究科修士課程修了に必要な単位に認められることがあります。先取科目として履修する場合、政策・メディア研究科の時間割表から同研究科の設置する「プログラム科目」として科目を選択し、**A欄分野**で履修申告しなければなりません。なお、修得した単位は、学部においては、自由科目（卒業に必要な単位としては計算されない）として扱われます。

Webによる履修申告システムで申告するときは、設置を「政策・メディア研究科」にして科目を選択し、A欄分野のまま申告してください。

政策・メディア研究科に進学後の認定方法など詳細は「大学院ガイド」を確認してください。

K. 飛び入学制度

政策・メディア研究科へは学部3年修了後、または学部4年1学期目修了後、大学院1年生への入学も可能です。課題の発見、解決のためのプロセスが学部の最初の段階から大学院修了まで一貫して継続されており、それを実現するためのカリキュラム構成がとられているためです。また、修士課程を1年で修了することのできる制度もありますので、最短で学部入学から4年間で修士号を取得することも可能です。

出願については所定の条件を全て満たす必要があります。詳細は出願時の政策・メディア研究科入試要項を必ず確認してください。

なお、参考までに2010年度実施入試における出願資格の概要を掲載します。

- a. 政策・メディア研究科入学時までに大学学部在学期間が3年間以上であること
- b. 入学時までに90単位以上修得見込であること（卒業に必要なでない自由科目等の単位数は含まない）
- c. 出願直前学期までに60単位以上修得済みであること（卒業に必要なでない自由科目等の単位数は含まない）
- d. 出願直前学期までに修得した単位について、以下の①または②のいずれかに該当すること（卒業に必要なでない自由科目等の単位数も全て含める。ただし、可否のみが判定される科目の単位数は含まない）
 - ①修得した単位の3分の2以上が在学する大学の学業成績における評語の最高点であること
 - ②次のいずれかに該当すること
 - ・在学6学期目に出願する場合、在学する大学の学業成績における評語の最高点を80単位以上修得していること
 - ・在学7学期目に出願する場合、在学する大学の学業成績における評語の最高点を96単位以上修得していること

大学院に飛び級で入学する場合は入学前に学部を退学する必要がありますが、大学評価・学位授与機構に学士の学位を申請することができます。

大学評価・学位授与機構のホームページ (<http://www.niad.ac.jp/>)

L. 3.5年 早期卒業制度

総合政策学部・環境情報学部の定める卒業要件を満たしたうえで、優秀な学業成績など優れた成果を挙げた者に対して3.5年（7学期）在学すれば卒業できる制度です。

9月入学者の4月就職、4月入学者の海外大学院進学などを支援することを目的としています。

対象者

2008年4月以降に第1学年として入学した者（9月入学者は2008年9月以降）を対象とします。

申請手続き・要件

第3学年1学期修了時に、以下3つの要件をすべて満たしている必要があります。

- 1 母国語以外の外国語のひとつについて以下の表で示される外国語検定試験の基準を満たしていること。
 - 2 96単位以上（自由科目は含まない）を取得済みであり、当該学期までに取得したすべての単位（自由科目を含む）について、下記の★計算方法により2.3以上であること。
 - 3 「研究会A」または「研究会B」を2学期以上履修し、かつ、「研究プロジェクト科目」について、下記の★計算方法により2.5以上であること。
- ただし、1、2の要件については、学会発表など、顕著な研究成果を挙げた場合は、要件を満たしていなくても申請が認められる場合がある。

※顕著な研究成果は以下の3点のいずれかとなります。詳細については事務室学事担当まで確認してください。

- ① 査読ありのジャーナル論文を執筆していること
- ② 学術書の執筆者となっていること
- ③ 認知されたコンテストで上位入賞をしていること

3.5年早期卒業要件

申請要件とあわせて、以下3つの要件をすべて満たすと、卒業となります。

- 1 総合政策学部・環境情報学部が定める通常の卒業要件を満たすこと。
- 2 「卒業プロジェクト1」および「卒業プロジェクト2」の評語がともにAであり、かつ、「研究プロジェクト科目」について、下記の★計算方法により2.7以上であること。
- 3 以下の1つ以上に該当すること。
 - ① 母国語以外の外国語のひとつについて以下の表で示される外国語検定試験の基準を満たしていること。
 - ② 慶應義塾大学大学院に合格していること。
ただし、大学院入学予定時期が、学部卒業の翌学期である場合に限る。

【★計算方法】

$$\{ (\text{評語がAの科目の合計単位数} \times 3) + (\text{評語がBの科目の合計単位数} \times 2) + (\text{評語がCの科目の合計単位数} \times 1) + (\text{評語がDの科目の合計単位数} \times 0) \} \div \text{取得単位数}$$

※自由科目、留学等で単位認定された科目を含む。ただし、評語がP, F, Gの科目は含めない。小数第2位以下を切り捨てます。

語種の基準

語種	外国語検定試験	申請時	卒業判定時
英語	TOEFL(PBT)(SFC実施のTOEFL-IPTを含む)	550点以上	580点以上
朝鮮語	ハングル能力検定試験	3級	準2級
	韓国語能力試験	3級	4級
中国語	中国語検定	3級	2級
	漢語水平考試(HSK)	5級	6級
マレー・インドネシア語	インドネシア語検定	C級	B級
アラビア語		インテンシブ2修了相当以上で個別に判断	スキル2科目以上修了レベルで個別に判断
ドイツ語	CEFR ※	能力B 2	能力C 1
	Goethe-Zertifikat	B 2	C 1
	オーストリア政府公認 ドイツ語能力検定試験(ÖSD)	B 2 Mittelstufe Deutsch	C 1 Oberstufe Deutsch
	ドイツ語技能検定試験	準1級	1級
フランス語	CEFR ※	能力B 2	能力C 1
	フランス文科省認定 フランス語資格試験(DELF/DALF)	B 2	C 1
	フランス文科省認定 フランス語テスト(TCF)	400 - 499点	500 - 599点
	実用フランス語技能検定試験	準1級	1級
スペイン語	スペイン語技能検定	3級	2級
	スペイン政府公認 スペイン語検定(DELE)	初級	中級
日本語	日本語能力試験	1級	1級

※ CEFR は Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment (「諸言語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠」) を指します。

(4) 自由科目

自由科目とは修得した単位が、進級・卒業に必要な単位に含まれない科目です。一度自由科目として修得した単位を、後に進級・卒業に必要な単位に変更することも、その逆もできません。

履修上限を超えて履修する場合や、履修済み科目・同一科目を複数履修する場合、諸研究所設置科目を履修する場合には自由科目として履修します。

ただし、次の科目は自由科目として履修することができません。

自由科目として履修できない科目：

英語基礎1、英語基礎2、外国語インテンシブ、外国語ベーシック、
ウェルネス科目(心身ウェルネス、体育1、体育2、体育3)、
卒業プロジェクト1、卒業プロジェクト2、卒業制作

(5) 科目の構成と 分野番号対応表

すべての科目には、「分野」が割り振られています。

履修申告での登録科目確認時や、履修申告科目確認表、学業成績表を確認する場合などに必要となります。

通常、履修申告の際に科目を登録するだけで、その科目が属する「分野」が自動的に登録されます。

しかし、通常と異なる「分野」で履修したい場合(自由科目で履修など)や、他学部・諸研究所の科目を履修したい場合には、「分野」を指定して履修申告しなければなりません。このとき指定する分野を「B欄分野」といいます。「B欄分野」の指定は、科目名の右側にあるプルダウンメニューから指定できます。国際センター設置短期在外研修プログラムは、P.93を参照してください。

2007年度以降に履修する科目の分野コード対応表

分野			科目の種類	B欄分野		
01	01	01	総合講座科目	—		
02	01	01	リフレッシャー科目	—		
03	01	01	創造支援系科目	創造実践科目	—	
03	02	01		創造技法科目	—	
03	03	01		創造技法プログラミング科目	A 系列	—
03	03	02			B 系列	—
03	03	03			C 系列	—
03	03	04			D 系列	—
03	03	05			E 系列	—
03	04	01		創造技法ナレッジスキル科目	—	
03	05	01		創造技法言語コミュニケーション科目	英語	—
03	05	02			朝鮮語	—
03	05	03			中国語	—
03	05	04			マレー・インドネシア語	—
03	05	05			アラビア語	—
03	05	06			ドイツ語	—
03	05	07			フランス語	—
03	05	08			スペイン語	—
03	05	09			日本語	—
03	05	10			ロシア語	—
03	05	11			イタリア語	—
03	06	01		創造技法ウェルネス科目	心身ウェルネス	—
03	06	02	体育1・体育2・体育3		—	
03	07	01	創造融発科目	—		
04	01	01	先端支援系科目	先端発見科目	—	
04	02	01		先端導入科目（総合政策学部設置科目（総合政策学部生） / 環境情報学部設置科目（環境情報学部生）	—	
04	02	09		先端導入科目（環境情報学部設置科目（総合政策学部生） / 総合政策学部設置科目（環境情報学部生）	—	
04	03	01		先端開拓科目（総合政策学部設置科目（総合政策学部生） / 環境情報学部設置科目（環境情報学部生）	—	
04	03	09		先端開拓科目（環境情報学部設置科目（総合政策学部生） / 総合政策学部設置科目（環境情報学部生）	—	
05	01	01	研究プロジェクト科目	研究会	—	
05	01	02		卒業プロジェクト	—	
05	01	03		その他	—	
06	01	09	他学部等設置科目	21		
07	01	01	教職課程教科に関する科目	—		
60	01	01	特設科目	—		
90	01	01	自由科目	自由科目	11	
90	09	02		プログラム科目（政策・メディア研究科設置）	—	

2006年度以前に履修した科目の分野コード対応表

分野	科目の種類	
10 01 03	英語	スキル
10 01 04		コンテンツ(外国語科目として)
10 01 05		海外研修
10 02 01	朝鮮語	インテンシブ
10 02 02		ベーシック
10 02 03		スキル
10 02 04		コンテンツ(外国語科目として)
10 02 05		海外研修
10 03 01	中国語	インテンシブ
10 03 02		ベーシック
10 03 03		スキル
10 03 04		コンテンツ(外国語科目として)
10 03 05		海外研修
10 04 01	マレー・インドネシア語	インテンシブ
10 04 02		ベーシック
10 04 03		スキル
10 04 04		コンテンツ(外国語科目として)
10 04 05		海外研修
10 05 01	アラビア語	インテンシブ
10 05 02		ベーシック
10 05 03		スキル
10 05 04		コンテンツ(外国語科目として)
10 05 05		海外研修
10 06 01	ドイツ語	インテンシブ
10 06 02		ベーシック
10 06 03		スキル
10 06 04		コンテンツ(外国語科目として)
10 06 05		海外研修
10 07 01	フランス語	インテンシブ
10 07 02		ベーシック
10 07 03		スキル
10 07 04		コンテンツ(外国語科目として)
10 07 05		海外研修
10 08 01	スペイン語	インテンシブ
10 08 02		ベーシック
10 08 03		スキル
10 08 04		コンテンツ(外国語科目として)
10 08 05		海外研修
10 09 02	ロシア語	ベーシック
10 10 02	イタリア語	ベーシック
10 99 03	日本語	スキル
10 99 04		コンテンツ(外国語科目として)

分野			科目の種類		
20	01	01	ウェルネス科目	保健衛生	
20	01	02		体育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	
30	01	01	汎用科目	通常	
30	01	02		導入科目	ナレッジスキル科目
30	01	03		情報技術科目	
30	02	01		共通基盤科目	通常（ナレッジスキル科目、情報技術科目、コンテンツ以外）
30	02	02		ナレッジスキル科目	
30	02	03		情報技術科目	
30	02	04		コンテンツ	
30	03	01		総合政策系科目（総合政策学部生） / 環境情報系科目（環境情報学部生）	
30	04	01		複合系科目	
30	05	01		環境情報系科目（総合政策学部生） / 総合政策系科目（環境情報学部生）	
30	09	01	他学部等設置科目		
40	02	01	専門科目	通常（ナレッジスキル科目、情報技術科目、コンテンツ以外）	
40	02	02		共通基盤科目	ナレッジスキル科目
40	02	03		情報技術科目	
40	02	04		コンテンツ	
40	03	01		総合政策系科目（総合政策学部生） / 環境情報系科目（環境情報学部生）	
40	04	01		複合系科目	
40	05	01		環境情報系科目（総合政策学部生） / 総合政策系科目（環境情報学部生）	
40	09	01		他学部等設置科目	
50	02	01		クラスター科目	通常（ナレッジスキル科目、情報技術科目、コンテンツ以外）
50	02	02			共通基盤科目
50	02	03	情報技術科目		
50	02	04	コンテンツ		
50	03	01	総合政策系科目（総合政策学部生） / 環境情報系科目（環境情報学部生）		
50	04	01	複合系科目		
50	05	01	環境情報系科目（総合政策学部生） / 総合政策系科目（環境情報学部生）		
60	01	01	特設科目		
70	01	01	研究プロジェクト	研究プロジェクト	
70	01	02		特別研究プロジェクト	
70	01	03		卒業制作	
90	01	01	自由科目	通常（政策・メディア研究科設置の研究領域科目除く）	
90	09	01		研究領域科目（政策・メディア研究科設置）	

(6) 同一科目

担当者が異なる場合でも科目名が同じものは同一科目となり、進級・卒業にかかわる科目として、複数の履修はできません（但し、外国語スキル、プロジェクト英語A～D、外国語海外研修A、外国語海外研修B、研究会A、研究会B、特別研究プロジェクトは除きます）。

また、修得済み科目と今年度以降に開講される科目において、科目名が異なっても同一科目とみなされるものがあります。

以下を参照してください。

コード	新科目名	旧科目名
00101	研究会A	研究プロジェクトC
00102	研究会B	研究プロジェクトA 研究プロジェクトB
00301	フィールド研究1	フィールド研究A
00302	フィールド研究2	フィールド研究B
01001	総合政策学の創造	SFC総合講座A プロジェクト総合講座A
01002	環境情報学の創造	SFC総合講座B プロジェクト総合講座B
02030	情報基礎	情報技術基礎 情報処理 情報処理I a
02040	数学基礎	数学基礎演習
03020	新事業創造ワークショップ	新事業創造論
03040	外交政策ワークショップ	戦後日本外交論
03060	電子おもちゃ設計ワークショップ	電子おもちゃ設計論
03070	ゲノム解析ワークショップ	バイオインフォマティクスツール実習
03080	センシング技術ワークショップ	リモートセンシング基礎 リモートセンシングI
03110	音楽基礎ワークショップ	音楽理論
03130	コラボレーション技法ワークショップ	コラボレーション技法
03160	対人コミュニケーション実践	対人コミュニケーション
03170	集団コミュニケーション実践	集団コミュニケーション
03180	ネットワークコミュニケーション実践	ネットワークコミュニケーション
03190	デザイン言語実践	ダイナミックデザイン
03210	意匠設計	デジタル基礎意匠論 基礎造形
04030	ソーシャルイノベーション	ソーシャルイノベーション概論 ネットワークコミュニティ
04070	スポーツビジネス	スポーツビジネス基礎
04100	言語コミュニケーション論	言語コミュニケーション
04140	地球システム	地球システム論
04160	ソシオセマンティクス	コミュニケーションダイナミクス
04180	インターネット	インターネット概論
04210	デザイン言語	デザイン言語総合講座
10040	ソーシャルビジネスプランニング	ソーシャルビジネスプランニング
10050	経営戦略	経営戦略論
10070	組織戦略（組織設計と変革）	組織設計変革論
10110	戦略的交渉論	交渉と問題解決
10140	研究開発と組織	テクノロジーマネジメントと経営組織
10180	アカデミックライティング	テクニカルライティング
10200	出版編集技術	メディアリテラシーB
10270	政策協働論	政治参加論
10290	金融経済ゲーミング	企業と市場のシミュレーション
10320	経営分析	経営分析論
11050	意思決定能力の開発	戦略的意思決定論
12010	シンキングプロセスデザイン	ダイアログデザイン

コード	新科目名	旧科目名
12040	Web デザインとマネジメント	メディアリテラシーC
12050	コンピュータミュージック1	コンピュータミュージックII
12060	コンピュータミュージック2	コンピュータミュージックII
12080	メディア技術基礎 (ネットワーク・画像処理)	メディア技術基礎 グラフィックスプログラミング
12090	メディア技術基礎 (3Dプログラミング)	メディア技術基礎 グラフィックスプログラミング
12100	問題解決とアルゴリズム	アルゴリズム論
12110	ソフトウェア工学	ソフトウェア工学
12150	デザインスタジオ (住まいと環境)	環境デザインA
12160	デザインスタジオ (都市と建築)	環境デザインB
12170	デザインスタジオ (自然と建築)	環境デザインC
12180	デザイン言語ワークショップ (電子工作)	デザイン言語ワークショップD デザイン言語演習I b
12190	デザイン言語ワークショップ (造形・プロダクト)	デザイン言語ワークショップB
12200	デザイン言語ワークショップ (観察・定着)	デザイン言語ワークショップA デザイン言語演習I a
12210	デザイン言語ワークショップ (情報デザイン)	デザイン言語ワークショップC
12220	デザイン言語ワークショップ (建築・都市)	デザイン言語ワークショップG デザイン言語演習II a
12230	デザイン言語ワークショップ (空間生成)	デザイン言語ワークショップF
12240	デザイン言語ワークショップ (映像制作)	デザイン言語ワークショップE デザイン言語演習I c
12250	デザイン言語ワークショップ (身体表現)	デザイン言語ワークショップI デザイン言語演習II b
12260	デザイン言語ワークショップ (コミュニケーション)	デザイン言語ワークショップH
12270	デザイン言語ワークショップ (アルゴリズム)	デザイン言語ワークショップJ
12280	デザイン言語ワークショップ (音楽)	コンピュータミュージックI プログラミング入門
13020	論理思考とプログラミング	情報処理I b 情報処理I c
13040	オブジェクト指向プログラミング	オブジェクト・プログラミング
13060	システムプログラミング	システム・プログラミング
14040	Web 社会調査法	テキスト意味空間分析法
14050	データ獲得法	データ獲得法入門
14060	データ分析	数量データ分析入門
14070	データマイニング	定性データ分析入門
14150	モデリング・シミュレーション技法	モデリングシミュレーション入門
14170	ソシオコンテンツ分析法	コンテンツ分析法
14180	空間分析	空間分析A 空間分析B
14260	数学と論理	組合せの理論
14290	現象の理論	数理と現象
14340	情報数学1	情報数学I
14350	情報数学2	情報数学II
15011	ドイツ語ベーシック1	ドイツ語I (ベーシック)
15012	ドイツ語ベーシック2	ドイツ語II (ベーシック)
15021	フランス語ベーシック1	フランス語I (ベーシック)
15022	フランス語ベーシック2	フランス語II (ベーシック)
15031	中国語ベーシック1	中国語I (ベーシック)
15032	中国語ベーシック2	中国語II (ベーシック)
15033	中国語ベーシック3	中国語III (ベーシック)
15041	朝鮮語ベーシック1	朝鮮語I (ベーシック)
15042	朝鮮語ベーシック2	朝鮮語II (ベーシック)
15051	マレー・インドネシア語ベーシック	マレー・インドネシア語 (ベーシック)

コード	新科目名	旧科目名
15061	スペイン語ベーシック 1	スペイン語Ⅰ（ベーシック）
15062	スペイン語ベーシック 2	スペイン語Ⅱ（ベーシック）
15063	スペイン語ベーシック 3	スペイン語Ⅲ（ベーシック）
15071	アラビア語ベーシック	アラビア語（ベーシック）
15081	ロシア語ベーシック 1	ロシア語（ベーシック）
15091	イタリア語ベーシック 1	イタリア語（ベーシック）
15211	ドイツ語インテンシブ 1	ドイツ語Ⅰ（インテンシブ）
15212	ドイツ語インテンシブ 2	ドイツ語Ⅱ（インテンシブ）
15213	ドイツ語インテンシブ 3	ドイツ語Ⅲ（インテンシブ）
15221	フランス語インテンシブ 1	フランス語Ⅰ（インテンシブ）
15222	フランス語インテンシブ 2	フランス語Ⅱ（インテンシブ）
15223	フランス語インテンシブ 3	フランス語Ⅲ（インテンシブ）
15231	中国語インテンシブ 1	中国語Ⅰ（インテンシブ）
15232	中国語インテンシブ 2	中国語Ⅱ（インテンシブ）
15233	中国語インテンシブ 3	中国語Ⅲ（インテンシブ）
15241	朝鮮語インテンシブ 1	朝鮮語Ⅰ（インテンシブ）
15242	朝鮮語インテンシブ 2	朝鮮語Ⅱ（インテンシブ）
15251	マレー・インドネシア語インテンシブ 1	マレー・インドネシア語Ⅰ（インテンシブ）
15252	マレー・インドネシア語インテンシブ 2	マレー・インドネシア語Ⅱ（インテンシブ）
15253	マレー・インドネシア語インテンシブ 3	マレー・インドネシア語Ⅲ（インテンシブ）
15261	スペイン語インテンシブ 1	スペイン語Ⅰ（インテンシブ）
15262	スペイン語インテンシブ 2	スペイン語Ⅱ（インテンシブ）
15263	スペイン語インテンシブ 3	スペイン語Ⅲ（インテンシブ）
15271	アラビア語インテンシブ 1	アラビア語Ⅰ（インテンシブ）
15272	アラビア語インテンシブ 2	アラビア語Ⅱ（インテンシブ）
15273	アラビア語インテンシブ 3	アラビア語Ⅲ（インテンシブ）
15411	ドイツ語スキル	ドイツ語（スキル）
15421	フランス語スキル	フランス語（スキル）
15431	中国語スキル	中国語（スキル）
15441	朝鮮語スキル	朝鮮語（スキル）
15451	マレー・インドネシア語スキル	マレー・インドネシア語（スキル）
15461	スペイン語スキル	スペイン語（スキル）
15471	アラビア語スキル	アラビア語（スキル）
15481	日本語スキル	日本語（スキル）
15611	プロジェクト英語 A	英語スキル
15612	プロジェクト英語 B	
15613	プロジェクト英語 C	
15614	プロジェクト英語 D	
15811	ドイツ語海外研修 A	ドイツ語 A（海外研修）
15812	ドイツ語海外研修 B	ドイツ語 B（海外研修）
15821	フランス語海外研修 A	フランス語 A（海外研修）
15822	フランス語海外研修 B	フランス語 B（海外研修）
15831	中国語海外研修 A	中国語 A（海外研修）
15832	中国語海外研修 B	中国語 B（海外研修）
15841	朝鮮語海外研修 A	朝鮮語 A（海外研修）
15842	朝鮮語海外研修 B	朝鮮語 B（海外研修）
15851	マレー・インドネシア語海外研修 A	マレー・インドネシア語 A（海外研修）
15852	マレー・インドネシア語海外研修 B	マレー・インドネシア語 B（海外研修）
15861	スペイン語海外研修 A	スペイン語 A（海外研修）
15862	スペイン語海外研修 B	スペイン語 B（海外研修）
15871	アラビア語海外研修 A	アラビア語 A（海外研修）
15872	アラビア語海外研修 B	アラビア語 B（海外研修）
15881	英語海外研修 A	英語 A（海外研修）
15882	英語海外研修 B	英語 B（海外研修）
16010	心身ウェルネス	保健衛生

コード	新科目名	旧科目名
16021	体育1（実技・講義）	体育Ⅰ
16022	体育2（実技・講義）	体育Ⅱ
16023	体育3（実技・講義）	体育Ⅲ
20090	現代技術と社会	現代技術論 現代技術
20100	サブカルチャーと社会認識	サブカルチャー論
20120	近代思想の世界	近代思想
20140	文学の世界	現代文芸
20160	心のライフデザイン	自己開発の心理
20170	生命と知能の進化	生命情報論
30020	パブリックマネジメント	行政管理論
30040	社会保障政策（年金・労働・福祉）	社会保障論
30070	現代社会理論	ヴィジョンと社会システム
30080	社会システム理論	現代と社会システム
30090	社会構造分析	現代と社会システム
30100	社会関係分析	行動と社会関係
30130	ネットワーク政策	公共政策B
30140	ネットワーク文化	情報通信文化論
30150	マスコミュニケーション	マス・コミュニケーション
30210	地域計画実践論	フローデザイン論
30220	まちづくり論	まちづくりの科学
31020	政治制度論	政治組織論
31030	地方自治論	地方自治の制度と運営
31040	憲法（人権）	国家と法A 国家と法
31050	憲法（統治）	国家と法B 国家と法
31080	企業法（会社法）	企業と法
31090	企業法（ベンチャー関連法）	E-ビジネスとベンチャー関連法
31100	刑法	社会と法
31110	行政法	行政と法
31130	ミクロ経済1	ミクロ経済Ⅰ ミクロ経済
31140	ミクロ経済2	ミクロ経済Ⅱ
31150	マクロ経済1	マクロ経済Ⅰ マクロ経済
31160	マクロ経済2	マクロ経済Ⅱ
31170	ゲーム理論	複雑性とゲーム理論
31190	応用ミクロ経済	数量経済分析B
31210	現代金融論	金融経済論
32020	国際政治経済論	国際経済政策
32040	安全保障と国際紛争	安全保障論
32060	国際開発論	国際開発協力論B 国際協力論
32110	国際法	国際社会と法
32130	地域と社会（アジア・大洋州）	リージョナルアナトミー論A リージョナルアナトミー論C リージョナルアナトミー論G
32150	地域と社会（米州）	リージョナルアナトミー論D リージョナルアナトミー論E
32210	言語と教育	コミュニケーションと政策形成
33010	都市と環境	都市と環境Ⅰ
33030	都市空間設計と情報技術	デジタル空間デザイン論
33040	エコロジカルデザイン	エコロジカル・デザイン
34020	スポーツ科学	運動の生理と心理

コード	新科目名	旧科目名
34050	インプレッションマネジメント	ネットワークコミュニケーション
34060	認知心理学	認知と心理 認知の心理
34090	言語と思考	英語Ⅱc (コンテンツ)
34100	バイオシミュレーション	バイオシミュレーション実習
34110	基礎生命科学実験	生物実験基礎
34120	遺伝子工学実習	遺伝子工学実験A
34130	遺伝子解析実習	遺伝子工学実験B
34160	基礎分子生物学 1	細胞生物学講読A 分子生物学講読A
34170	基礎分子生物学 2	細胞生物学講読B 分子生物学講読B
34180	基礎分子生物学 3	細胞生物学講読C 分子生物学講読C
34190	基礎分子生物学 4	細胞生物学講読D 分子生物学講読D
35050	ユビキタスシステムアーキテクチャ	モバイルプログラミング モバイル・分散プログラミング
35070	情報通信セキュリティとプライバシー	情報通信セキュリティ論
35130	アンビエントメディアデザイン	サイトオリエンティッドデザイン
35140	インタラクションデザイン	デジタルインターフェイスデザイン デジタルドラマツルギー I
35150	3Dシステムデザイン	3Dシステム構成論 デザイン支援論
35160	情報と倫理	情報リテラシー
40030	社会的組織の経営 (スポーツビジネス)	スポーツビジネス応用
40040	ソーシャルマーケティング	ソーシャルマーケティング
40050	コミュニティインベストメント	コミュニティ・インベストメント論
40060	パブリックガバナンス	行政組織の経営と評価
40090	情報技術とマーケティング	サイバースペースマーケティング
40100	ネットワーク産業論	ネットワーク情報産業論
40150	科学技術政策	技術政策論
40170	環境政策	環境政策論
41020	政策過程論	政策過程論 I
41030	政策評価論	行政評価論
41050	地方政府動態論	地方政府論 II
41070	民法演習	民法演習 A 民法演習 B
41110	経済政策	経済政策分析
41120	財政政策 (国家)	財政分析論
41130	財政政策 (地方政府)	地方財政論
41140	経済分析演習	経済理論演習
41150	計量ファイナンス	数量経済分析 A
41200	ファイナンス論	金融工学概論 A
41210	リスクと保険	金融工学各論
42030	地球環境政策	地球環境政策論
42040	安全保障政策	安全保障論
42100	国際比較法制論	国際比較法制論 A 国際比較法制論 B アメリカ憲法理論 (院特設)
42170	言語動態論	比較言語文化論
43010	ランドスケープエコロジー	ランドスケープ・エコロジー
43060	エコシステム評価論	環境評価論
43090	地球システム設計論	地球設計論

コード	新科目名	旧科目名
43100	地球環境情報論	環境情報分析 環境情報システム論
43130	ビルディングエレメントデザイン	ビルディング・エレメント論
44020	生命情報解析	生物物理化学講読A
44070	知覚・認知モデル論	認知モデル論
44090	知覚運動スキル論	知覚－運動スキル論
44120	語彙意味論	英語Ⅱ f (コンテンツ)
44130	認知言語論	英語Ⅲ i (コンテンツ)
44140	ゲノム解析プログラミング	ゲノム解析プログラミング実習
44170	生命分子機能	生物物理化学講読D
44190	代謝システム工学	生物物理化学講読C
44200	ゲノム分子生物学1	ゲノムサイエンス
44210	ゲノム分子生物学2	ポストゲノムサイエンス
44220	メタボロミクス	生物物理化学講読B
45030	パターン情報論	メディア処理論
45040	自然言語処理論	自然言語論
45070	モバイルネットワーク論	マルチメディアネットワーク
45090	インターネットシステム構成法	インターネット構成法
45140	言語システム構成法	コンパイラ構成論
45160	デザイン戦略 (ビジュアライゼーション)	ビジュアライゼーションセオリー CGモデリング 情報環境設計論
45170	デザイン戦略 (デジタルサウンド)	コンピュータミュージックⅢ
45180	デザイン戦略 (ウェアラブルメディア)	ウェアラブルメディアストラテジー
45190	デザイン戦略 (エンタテイメント)	エンタテイメントストラテジー デジタルエンタテイメント・プロデュース論 デジタルエンターテイメントデザイン
45200	デザイン戦略 (ムービングイメージ)	ムービングイメージストラテジー
45210	デザイン戦略 (アンビエントメディア)	パブリックアレンジメント
45230	デザイン戦略 (コンピュータアニメーション)	コンピュータアニメーション コンピュータグラフィックスⅡ
45240	デザイン戦略 (アーキテクチャ)	ダイアログストラテジー
90002	アクチュアリアルサイエンス入門	アクチュアリアル・サイエンス入門
90505	アントレプレナー概論1	アントレプレナー概論Ⅰ
90506	アントレプレナー概論2	アントレプレナー概論Ⅱ
90509	21世紀の企業の挑戦	21世紀に向けての企業の挑戦

(7) 他キャンパスおよび看護医療学部設置科目の履修	他キャンパスおよび看護医療学部に設置されている科目を履修する場合は、以下の注意事項をよく読んで履修申請してください。
① 履修可能な科目	<p>他キャンパスおよび看護医療学部に設置されている科目は、各学部の履修制限の範囲内で、科目担当者の許可を得た場合に履修することができます。</p> <p>A. 各学部の必修科目や、クラス指定のある科目は、通常履修できません。詳細は、P. 75「他学部他研究科学生の履修を制限する科目(学部)」を参照してください。また、最新情報については、A館掲示板もしくは学生部の各学部担当に確認してください。</p> <p>B. 諸研究所に設置されている科目は、自由科目として登録しなければなりません。また、各研究所の研究生として登録しなければ履修できない場合があります。必ず各研究所発行の「履修案内」を確認してください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>諸研究所： 外国語教育研究センター，教職課程センター，教養研究センター，言語文化研究所，国際センター，情報処理教育室，体育研究所，知的資産センター，保健管理センター，アート・センター，メディア・コミュニケーション研究所，福澤研究センター，グローバルセキュリティ研究所，斯道文庫 など</p> </div> <p>C. 研究科(大学院)の科目は、原則として履修できません。</p>
② 履修可能学年	他学部では履修学年を明確に指定していることがあります。このときには、その指定に従ってください。特に三田・矢上設置科目は3年生以上が対象となります。(ただし、三田・文学部は2年生以上)
③ 時間上の制約	SFCと他キャンパスの科目を同じ曜日に履修する場合、連続する時限の科目を履修することはできません。たとえば、第2時限に他キャンパスの科目を履修する場合は、SFCで第1時限と第3時限に履修することはできず、1時限分以上間隔をあげなければなりません。
④ 通年科目の履修単位・成績	<p>通年科目はその単位を2等分したものを春学期と秋学期の履修単位に加算します。たとえば、4単位の通年科目は、春学期2単位、秋学期2単位を履修するものとみなします。同様に、3単位の通年科目は、春学期1.5単位、秋学期1.5単位です。</p> <p>しかし、修得単位として認められるのは、秋学期終了時のみです。分割して単位を認定することはありません。</p>
⑤ 手続き	以下の2点の手続きが必要です。
A. 履修申告	<p>他学部設置科目(矢上：理工学部設置科目(教職科目は除く)・看護医療学部設置科目を除く)は、通年科目、春学期科目、秋学期科目すべてを春学期にWeb履修申告しなければなりません。履修申告修正期間(分野変更のみ)も春学期間に設定された期間とします。諸研究所に設置されている秋学期開講科目は、秋学期に履修申告できる場合があります。詳細は当該科目が設置されている諸研究所に確認してください。</p> <p>秋学期の履修申告・履修申告修正期間には、春学期に履修申告済みの通年科目、秋学期科目とも修正・削除・分野変更は原則としてできません。ただし、SFCのクラス指定科目や未履修の必修科目との重複、春学期に掲載された秋学期時間割表に変更があった場合のみ削除することができます。履修申告開始前日までに事務室学事担当窓口まで申し出てください。</p>
B. 分野番号	<p>必ず分野を「B欄」で申告してください。</p> <p>B欄：11 自由科目：*進級・卒業の単位には含まれません</p> <p>B欄：21 他学部等設置科目</p> <p>「A欄」申告をすると「保留中」となり、全科目無効になるので注意してください。</p>

⑥ 他キャンパスの 抽選	<p>他キャンパスの抽選で「履修不許可」となった場合は、該当科目を設置している学部（キャンパス）の対応に準じます。</p> <p>追加申告の認められない科目もあるので、その点を考慮のうえ履修申告してください。</p>
⑦ Web履修画面での エラー	<p>許可を得ているにも関わらずWeb履修申告画面でエラー（学年条件不備、クラス指定不当など）表示が出た場合、エラー表示の出た画面をプリントアウトした上でエラー対象科目を削除して再度登録ボタンを押し、エラーのない状態で終了しSFC事務室学事担当窓口へ申し出てください。</p>
(8) フィールドワーク・ インターンシップ	<p>いわゆる通常の授業以外に、長期休業期間中にキャンパスを離れ、自ら国内外に出向いて実地調査、研究活動を行う学習形態（オフ・キャンパス・スタディ）があります。このオフ・キャンパス・スタディの一環として、フィールドワークやインターンシップがあります。フィールドワークとは、自分で調査したいと考える国内外の実地に飛び出し、現地機関や住民の方などに最前線で調査・取材等を行い、成果をまとめるものです。インターンシップとは、一定期間企業等の中で研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行うものです。自身のキャリアアップのためにも、ぜひ積極的に挑戦してみてください。</p> <p>フィールドワークやインターンシップを進級や卒業に必要な単位とするには、当該活動実施前に計画書などを提出し承認を得ること、および実施後の所定期間に行う履修申告が必要となります（科目名：「フィールド研究1」「フィールド研究2」「企業インターンシップ」「非営利組織インターンシップ」「社会企業インターンシップ」）。申請基準、活動時間、課題などの詳細はSFC公式ウェブサイトを参照してください（http://www.sfc.keio.ac.jp/students_soukan/class/fieldwork.html）。</p>

他学部他研究科学生の履修を制限する科目 (学部)

【注意事項 (全学部研究科)】

- 必ず事前に各授業担当者に了承 (口頭での承認) を得た上で他学部他研究科設置科目履修に必要な手続きをしてください。下記の科目以外にも、個々の授業によって履修の制限をする場合があります。必ず講義要綱・シラバスを熟読してください。
- 初回の授業で履修に関するガイダンスや履修の制限を行う場合があります。必ず初回の授業に出席してください。
- 所属学年による制限もあります。学年条件を満たしていない場合は、制限科目でなくても履修できません。
- 看護医療学部および矢上：理工学部設置科目のみ秋学期に履修申告できます。

地区	学部	履修可能な学年	制限科目	地区	学部	制限科目	地区	学部	制限科目	
三田	文学部	学部2年生以上	<ul style="list-style-type: none"> ◆必修語学科目 (文学部時間割の語学科目に記載されている科目) ◆総合教育科目の系列科目 (文学部時間割の総合教育科目 (人文科学系列・社会科学系列・自然科学系列) に記載されている科目) ◆卒業論文・卒業試験 (研究会は履修可能) *ただし必修科目や、履修者数が多い場合は、文学部生優先となる科目もあります。 	日吉	経済学部	<ul style="list-style-type: none"> ◆基礎教育科目の必修科目 ◆外国語科目の必修科目、選択必修科目 ◆専門教育科目の必修科目 *ただし履修者数が多い場合やクラスが指定されている場合は、経済学部生優先となる科目もあります。 	日吉	理工学部	<ul style="list-style-type: none"> ◆必修科目 ◆実験科目 (必修または選択) ◆演習科目 (必修または選択) <p>ただし教職に必要な場合に限り、科目担当者と学習指導が判断し、履修許可する場合があります。</p> <p>科目の履修にあたり、理工学部への所定用紙提出が必要となりますので、履修希望者は http://www.gakuji.keio.ac.jp/hiyoshi/rikou/index.html を必ず参照し、所定の手続きをしてください。</p>	
		学部3年生以上	<ul style="list-style-type: none"> ◆「金融資産市場論 a/b」 ◆「金融投資サービス論 a/b」 ◆「経済政策のミクロ分析 a/b」 ◆「公共経済学 a/b」 ◆PCP 科目、研究プロジェクト科目 *一部の科目を除き、事前選考に合格した学生のみが履修できます。 ◆外国語科目の選択必修科目 *外国語科目の選択必修科目と併設する選択科目は履修可能です (登録番号が異なります)。 			<ul style="list-style-type: none"> ◆必修外国語科目 【法律学科】 ◆全ての必修科目 「法学 I (憲法を含む)」 「法学 II (憲法を含む)」 「憲法 (総論・人権) I」 「憲法 (総論・人権) II」 「民法 (総論) I」 「民法 (総論) II」 「刑法 (総論) I」 「刑法 (総論) II」 			薬学部	<ul style="list-style-type: none"> ◆必修科目 ◆選択必修科目 ◆自由科目
	法学部	3年生以上	なし	日吉	法学部	<ul style="list-style-type: none"> 【政治学科】 ◆全ての必修科目 「社会学」 「法学 (憲法を含む)」 「経済原論 I」 「憲法」「経済原論 II」 「政治学基礎 I」 「政治学基礎 II」 「政治思想基礎」 「日本政治基礎」 「地域研究・比較政治基礎」 「国際政治基礎」 	矢上	理工学部	<ul style="list-style-type: none"> ◆なし <p>科目ごとではなく、履修希望学生の学力や、学習環境をもとに、科目担当者と学習指導副主任が判断し、履修許可します。</p> <p>科目の履修にあたり、理工学部への所定用紙提出が必要となりますので、履修希望者は http://www.gakuji.keio.ac.jp/yagami/rikou/rikougakubu_igai.html を必ず参照し、所定の手続きをしてください。</p>	
	商学部	学部3年生以上	<ul style="list-style-type: none"> ◆全ての 99 学則の科目 (旧学則の科目) *必ず05学則 (新学則) 適用用の時間割表から履修してください。 ◆「経済学と法制度」 「イノベーションの経営・商業」 ◆「専攻演習 S」「専攻演習 D」 *抽選後人数に余裕があり、初回の授業で授業担当者の了承を得られれば履修可能です。必ず事前に空き状況を三田学生部商学部担当に確認してください。(許可願 (所定用紙) に授業担当者の了承が必要です)。 ◆「外国語演習 S」「外国語演習 D」 「関連課題研究 S」 「関連課題研究 D」 *履修希望者が多い場合は担当教員による選抜を行い、商学部生が優先されます。 			<ul style="list-style-type: none"> ◆必修外国語科目 (2005年度以降入学用カリキュラム) ◆必修科目 「経済学基礎 I・II」「微積分 I・II」 「統計学 I・II」 ◆基礎科目・専攻科目・総合教育科目 「基本簿記と財務諸表の見方」 「社会経済学 I・II」 「経済学 I・II」 「情報リテラシー基礎」 「社会との対話 D・S」 「データとの対話 D・S」 			総合政策学部・環境情報学部	<ul style="list-style-type: none"> ◆卒業プロジェクト 1 ◆卒業プロジェクト 2 ◆卒業制作 ◆心身ウェルネス ◆体育 1 ◆体育 2 ◆体育 3 ◆英語基礎 1 ◆英語基礎 2 ◆外国語インテンシブ ◆外国語ベシック
日吉	文学部	履修不可科目	<ul style="list-style-type: none"> (1)必修語学科目 (文学部履修案内参照) (2)特論科目すべて ・人文科学特論 (4 単位) ・人文科学特論 I (2 単位) ・人文科学特論 II (2 単位) ・社会科学特論 I (2 単位) ・社会科学特論 II (2 単位) ・自然科学特論 I (2 単位) ・自然科学特論 II (2 単位) ◆文学部 1 年優先科目 (3)総合教育セミナー ・総合教育セミナー I (2 単位) ・総合教育セミナー II (2 単位) ◆配当学部優先科目 (4)その他 ・人の尊厳 (2 単位) 	日吉	商学部	<ul style="list-style-type: none"> (2004年度以前入学用カリキュラム) ◆必修科目「経済学」「商学概論」 ◆基礎科目・専攻科目・総合教育科目 「簿記論」「情報処理 I・II」 「社会経済学」 「理論経済学 I」「社会との対話 D・S」 	看護医療学部	<ul style="list-style-type: none"> ◆実習科目 ◆以下の講義・演習科目 「生活援助技術」「医療支援技術」 「看護基本技術」「在宅看護技術」 「臨床看護学演習」 「急性期看護学演習」 「慢性期看護学演習」 「小児看護学演習」「精神看護学演習」 「終末期看護学演習」 「助産理論」「助産技術」 ◆その他の科目は、科目担当者が許可すれば履修可 		
						医学部		<ul style="list-style-type: none"> 全科目不可 	信濃町	医学部
								芝共立	薬学部	全て不可

※最新情報を必ず以下の URL で確認してください。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/rishu/tagakubu.html>

(9) 教職課程
(教職課程センターより)

教員免許を取得しようと考えている学生は、「教職課程」を履修しなければなりません。慶應義塾大学では三田キャンパスにある「教職課程センター」が、教職課程履修者の指導に当たっています。

教職課程センターでは、毎年、年度初めに教職課程の履修を希望する学生を対象に「教職課程ガイダンス」を実施しています。履修希望者は、その教職課程ガイダンスに出席し、慶應義塾大学における教員養成について十分理解した上で、教職課程を履修してください。

SFCでは、2002年度に教職課程認定を受けました。したがって、2002年度の入学者から教職課程を履修できます。それ以前に入学した学生は、「教職課程ガイダンス」および教職課程センター専任教員による学習指導の指示に従ってください。また外国で学士の資格を得た場合も教職課程センター専任教員による学習指導と相談してください。

慶應義塾大学の教職課程で取得できる教員免許状の種類および教科は、以下のとおりです。

文学部	人文社会学科	中学校 1種	国語、社会、外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語）
		高等学校 1種	国語、地理歴史、公民、外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語）、情報
経済学部	経済学科	中学校 1種	社会
		高等学校 1種	地理歴史、公民
法学部	法律学科	中学校 1種	社会
		高等学校 1種	地理歴史、公民
	政治学科	中学校 1種	社会
		高等学校 1種	地理歴史、公民
商学部	商学科	中学校 1種	社会
		高等学校 1種	地理歴史、公民、商業
理工学部	機械工学科	中学校 1種	数学
		高等学校 1種	
		高等学校 1種	工業
	電子工学科	中学校 1種	数学
		高等学校 1種	
	応用化学科	中学校 1種	理科
		高等学校 1種	
		高等学校 1種	工業
	物理情報工学科	中学校 1種	理科
		高等学校 1種	
	管理工学科	中学校 1種	数学
		高等学校 1種	
		高等学校 1種	情報
	数理科学科	中学校 1種	数学
		高等学校 1種	
		高等学校 1種	情報
物理学科	中学校 1種	理科	
	高等学校 1種		
化学科	中学校 1種	理科	
	高等学校 1種		
システムデザイン工学科	中学校 1種	理科	
	高等学校 1種		
	高等学校 1種	情報	
情報工学科	中学校 1種	数学	
	高等学校 1種		
	高等学校 1種	情報	
生命情報学科	中学校 1種	理科	
	高等学校 1種		
総合政策学部	総合政策学科	中学校 1種	社会
		高等学校 1種	公民
環境情報学部	環境情報学科	高等学校 1種	情報

① 教職課程の履修・登録の学年について

A. 教職課程の履修学年

教職課程を区分すると、次の4領域にわたっています。

- ①. 教科に関する科目
- ②. 教職に関する科目
- ③. 教科又は教職に関する科目
- ④. ①と②と③以外の科目

以上のうち、②および③は第2学年から履修できます。④は「教員として必要な幅広く深い教養」を身につけるための科目です。

(注) 9月入学の学生は教職課程の履修の仕方に異なる点がありますから、個別に学習指導を受けてください。

B. 教職課程の登録

教職課程を履修しようとする学生は、所定の登録をしなければなりません。教職課程登録は第2学年から行うことが可能です。

参考：登録の際「教職課程費」（現行 30,000 円）を納入しなければなりません。

② 科目の履修について

前述の教職課程の4つの領域について、各領域ごとにその履修解説をします。

①. 教科に関する科目

この科目群の詳細については、年度初めの教職課程の登録の際に三田および日吉で行われる「教職課程ガイダンス」の際に『教職課程履修案内』を配布し、それを使って学習指導担当者が説明します。ここでは履修上学生がよく誤解する点のみ以下に述べます。

a. 「教科に関する科目」は、学則上以下の3つの科目区分にわたって設置されています。

- (ア) 所属学部・学科の専門領域に属する科目
- (イ) 各学部・学科の「教職課程教科に関する科目」
- (ウ) 教職課程センター設置の「教科に関する科目」

以上の科目のうちすべてが「教科に関する科目」とはなりません。当該学部・学科で取得できる免許教科に関連する科目が「教科に関する科目」となります。学部1・2学年に担当されている所属学部・学科の科目のうち、この科目にあたるものがありますので、なるべく単位を取得しておくことが望まれます。第1・2学年に担当されている「教科に関する科目」のうち、特に第1・2学年で単位取得が望ましい科目については、4月の「教職課程ガイダンス」で説明しますので、必ず出席するようにしてください。

(イ)と(ウ)の科目は、第2学年以降に履修できますので、教職課程登録を行う学年に進級した際に各キャンパスで行われる「教職課程ガイダンス」に出席し、学習指導担当者の説明を聞いて履修してください。

b. 同一名称や類似名称の科目であっても、専門教育科目・法律学科目・政治学科目・専攻科目・専門科目および「教職課程教科に関する科目」でない科目は、原則として「教科に関する科目」とならないので、注意してください。詳細については、「教職課程ガイダンス」で説明します。

②. 教職に関する科目	<p>「教職に関する科目」は、教職課程を登録する学年から履修できます。これらの科目に関する学部での履修上の扱いは、多くは「自由科目」となっています。学部によって「自由科目」の扱いが異なる場合がありますので、履修申告の際、十分注意をはらう必要があります。</p> <p>SFCでは進級・卒業に関わる科目として1学期間に履修できる単位の上限は20単位とし、自由科目を含めて30単位です（この30単位のうち自由科目の上限はありません）。</p>
③. 教科又は教職に関する科目	<p>主に三田キャンパスに設置されている科目です。履修については「教職課程ガイドダンス」で説明します。</p>
④. ①、②、③以外の科目	<p>教育職員免許法施行規則には「教員として必要な幅広く深い教養」を身につけることが規定されています。</p> <p>しかし、教員免許取得のためには、特に、次の単位が必修となっていますので注意してください。</p> <p>a. 「日本国憲法」必修 SFCでは、「憲法（人権）」＋「憲法（統治）」がこれに当たります。</p> <p>b. 「体育」2単位必修 SFCでは、「体育1（実技・講義）」、「体育2（実技・講義）」、「体育3（実技・講義）」のうち2単位分がこれに当たります。</p> <p>c. 「外国語コミュニケーション」2単位必修 SFCでは、創造技法言語コミュニケーション科目がこれに当たります。</p> <p>d. 「情報機器の操作」必修 SFCでは「論理思考とプログラミング」もしくは「コンピュータ基礎とプログラミング」がこれに当たります。</p> <p>2007年度以降入学者については第4学年までに単位を修得しておいてください。所属学部設置されている科目を原則として履修してください。</p>
③ 履修に関する注意	<p>春学期にすべての科目を履修申告してください。また、原則として春学期に履修申告した科目を秋学期に履修削除することはできません（SFC学部の履修ルールと同様の扱いとする）。</p>
④ 教職課程履修開始の心構え	<p>安易な気持ちで教職課程を履修することがないようにしてください。特に以下の点は十分に理解することが必要です。</p> <p>A. 最終学年に実施する「教育実習」期間中は、一切の学事・就職活動・個人の活動ができませんので、毎年、「教育実習」を放棄し、そのため教員免許を取得できない学生が少なからずいます。</p> <p>B. 教員免許状が取得できたとしても、教員の需給の関係からして就職は容易ではありません。</p> <p>将来中学校・高校の教員になることを志望している学生は、以上の点をよく考慮した上で、教職課程の履修を第2学年からはじめてください。</p>

⑤ 介護等体験について

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」(通称「介護等体験特例法」)が成立し、平成10年4月1日から施行されました。これにより、小学校教諭または中学校教諭の普通免許状を取得しようとする学生には、7日間を下らない範囲内で、特別支援学校(盲学校・聾学校・養護学校)および社会福祉施設等で、障害者・高齢者等に対する介護・介助、これらの人との交流等が必要となります。この法律は平成10年4月1日以降に入学した学生に適用されます。教職課程ガイダンスで、そのことについての説明がありますので、注意して聞いてください。2005年度から「教職介護等体験」(2単位)が新設されています。なお、この科目は③教科又は教職に関する科目となります。

⑥ その他の注意

- A. 教職課程の掲示板は、A館1階インフォメーションロビーにあります。重要な事項および各種ガイダンス日程などを掲示します。見落としのないよう十分注意してください。
- B. 教職課程ガイダンスについて
教職課程を履修しようとする2年生以上の学部学生・大学院生は、新規登録希望者向けの教職課程ガイダンスに必ず出席してください。
- C. 学校教育学コースについて
教職課程登録を行っている学年のうち、原則として3年生の春から2年間、より深く専門的かつ実践的に学校教育学について学ぶコースです。興味のある人は、学習指導に相談して下さい。

(10) 鶴岡タウンキャンパス (TTCK) の授業

山形県鶴岡市に慶應義塾大学鶴岡タウンキャンパス(TTCK)があります。TTCKには先端生命科学研究所(Institute for Advanced Biosciences)が設置されており、2010年に開設10年目を迎えました。この研究所ではゲノム工学、細胞代謝工学などの先端実験科学に、ゲノムのコンピュータ解析や細胞シミュレーションなどのIT技術を合体させ、世界に先駆けて21世紀型の生命科学を展開しています。
<http://www.ttck.keio.ac.jp>
 2学期間(または1学期間)鶴岡キャンパスに滞在し、バイオテクノロジーの基礎を体験できます。実験経験の全くないSFC学生を対象とし、まず実験器具の取り扱い方の初歩から初めます。実践的な実習では、細胞内の遺伝子、タンパク質、代謝物質などの様々な対象を探究する技術を修得します。自分自身のDNA配列を解読する実習もあります。
 21世紀はバイオとITの時代と言われながらも、実際にこのような経験ができる機会は、一生でこれが最初で最後かもしれません。

① 開講科目について

鶴岡キャンパス開講科目はSFCの正式な授業です。休学することなしに、TTCKに通学しながら卒業に必要な単位を取得できます。今年度は以下の科目の開講を予定しています。

鶴岡キャンパス開講科目（春）	研究会
	基礎生命科学実験
	遺伝子工学実習
	生命分子機能
	代謝システム工学
	代謝システム工学実習
	基礎分析化学
	基礎生化学
	ゲノム分子生物学1
	生命物理科学
	山形文化論
鶴岡キャンパス開講科目（秋）	研究会
	基礎生命科学実験
	遺伝子解析実習
	生命分子構造
	質量分析
	ゲノム分子生物学2
	プロテオミクス
	プロテオーム解析実習
	メタボロミクス
メタボローム解析実習	
鶴岡で履修可能なSFC科目（春）	生命情報解析

山形大学農学部の科目（SFCの科目として単位認定可能：他学部他大学60単位上限に含む）を科目等履修生として履修する場合、履修に先だって、詳細をSFC事務室学事担当窓口にお問い合わせください。

各学期の履修上限単位は20単位ですが、必ずしも20単位を履修できることを保証はしていません。TTCKで開講している科目（遠隔でも可）のみ履修可能となります。すなわちTTCKで授業を受講することで、半年あるいは、1年間外国語を履修できません。また、環境情報系科目の開講がほとんどです。取得単位についてよく考慮した上で参加申し込みをしてください。

② 参加募集等

原則として、当該学期に在籍する学生が参加できます。

募集は、参加する直前の学期の5月中旬・10月中旬に行います。参加希望の学生は、2011年度秋学期参加希望の場合は5月末日、2012年度春学期参加希望の場合は11月末日までに申込手続きを行ってください。詳細はSFC事務室学事担当窓口にお問い合わせください。

参加希望者の中から15名程度にバイオキャンプ奨励金を給付します(③、④参照)。奨励金受給者とならなかった場合も、鶴岡キャンパス周辺に滞在し鶴岡キャンパス開講科目を履修できる場合がありますので担当教員と相談してください。

③ 研修棟（学生寮）

バイオキャンプ奨励金受給者には、ログハウス風の研修棟（学生寮）を完備しています。バス・トイレ・LAN付の個室です。ここを利用できる学生の人数には限りがあります。

④ 費用について

バイオキャンプ奨励金受給者の実習費用、研修棟利用料等は、先端生命科学研究所から奨励金として補助されます。

(1) AUD科目履修と
一級建築士受験資格

【2009年度以降の入学者のみ対象】

2008年11月の建築士法の改正に伴い、2009年度より一級建築士の受験資格取得のための学歴要件が変更され、環境情報学部、総合政策学部で指定された科目の中から各項目における必要単位数を満たし、合計60単位を修得した者は、大学卒業後2年間の実務経験の後、一級建築士受験資格を得ることができます。

以下に掲載の指定科目に該当する開講科目一覧にしたがって履修してください。建築士試験別、指定科目に係る必要単位数と必要な建築実務の経験年数も以下の一覧に従ってください。詳細は別途説明会を行います。日時、場所は掲示にて周知します。

開講科目一覧

指定科目の分類	開講科目	単位数	小計
①建築設計製図	応用環境デザイン（建築とランドスケープのデザイン）	4	32
	応用環境デザイン（都市環境のデザイン）	4	
	応用環境デザイン（グリーン・アーキテクチャ・デザイン）	4	
	応用環境デザイン（総合）	4	
	空間とデザイン	4	
	デザインスタジオ（住まいと環境）	4	
	デザインスタジオ（都市と建築）	4	
	デザインスタジオ（自然と建築）	4	
②建築計画	都市デザイン論	2	8
	環境の変遷	2	
	都市と建築の歴史	2	
	建築設計と環境デザイン	2	
③建築環境工学	建築環境制御論	2	2
④建築設備	環境空間論	2	2
⑤構造力学	環境の力学	2	4
	構造のデザイン	2	
⑥建築一般構造	建築技術論	2	4
	ビルディングエレメントデザイン	2	
⑦建築材料	建築構成論	2	2
⑧建築生産	建設マネジメント論	2	2
⑨建築法規	都市空間の構成	2	2
⑩その他	ランドスケープデザイン	2	26
	デザインスタディーズ	2	
	都市と地域の未来	2	
	都市空間設計と情報技術	2	
	都市と環境	2	
	都市空間の再設計	2	
	意匠設計	4	
	まちづくり論	2	
	地域環境論	2	
	都市政策	2	
	デザイン言語ワークショップ（建築・都市）	2	
	都市システム論	2	

建築士試験別、指定科目に係る必要単位数と必要な建築実務の経験年数

指定科目	一般建築士試験			二級・木造建築士試験		
①建築設計製図	7単位	7単位	7単位	5単位	5単位	5単位
②建築計画	7単位	7単位	7単位	7単位	7単位	7単位
③建築環境工学	2単位	2単位	2単位			
④建築設備	2単位	2単位	2単位			
⑤構造力学	4単位	4単位	4単位	6単位	6単位	6単位
⑥建築一般構造	3単位	3単位	3単位			
⑦建築材料	2単位	2単位	2単位			
⑧建築生産	2単位	2単位	2単位	1単位	1単位	1単位
⑨建築法規	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
①～⑨の計 (a)	30単位	30単位	30単位	20単位	20単位	20単位
⑩その他 (b)	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜
(a) + (b)	60単位	50単位	40単位	40単位	30単位	20単位
必要な実務経験年数	2年	3年	4年	0年	1年	2年

VIII. 試験とレポート

(1) 定期試験

定期試験（学期末試験と呼ぶこともあります）は春学期末（7月下旬）と秋学期末（1月下旬～2月上旬）に行われます。試験の時間割や注意事項は、掲示により発表されますが、試験実施の曜日、時間、教室などは平常の授業と違う場合がありますので注意してください。

定期試験を受験する際は、学生証を必ず携帯し提示してください。学生証を紛失した場合などは、早めに再発行してください。試験当日に万一学生証を携帯しなかった場合は、事務室学事担当窓口で必ず仮学生証（発行当日限り全キャンパスで有効、図書館入館も可）の交付を受けてください。学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。仮学生証発行手続により、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。

試験問題の配布後は、試験終了まで一切教室から退室することは認められません。遅刻が無制限に認められているため、遅刻者等に問題が漏洩する可能性を無くすために、途中退室は禁止されています。

一度試験問題を見た後は、いかなる理由であっても当該科目の追加試験は受けられません。また、遅刻して受験した場合、いかなる理由であっても試験時間の延長は認められません。

当該科目の受験者以外の者が受験会場を間違えて入室していた場合、問題を配布後に気づいても、無断退室できません。また、試験時間内に体調不良で途中退室せざるを得ない場合は、必ず試験監督者に申し出て、試験本部の指示に従ってください。**無断で途中退室した場合は、不正行為（当該学期の履修科目は全てD）とみなされます。**

(2) 追加試験

追加試験（追試と呼ぶこともあります）は、病気などやむを得ない理由で定期試験を受けられなかった者に対して春学期は8月上旬、秋学期は2月上旬に行われる試験です。定期試験期間以外に試験が行われた科目、レポートや平常点により採点される科目の追加試験は行いません。

追加試験の受験を希望する場合は、定期試験を受けられなかった理由がわかる公的証明書等が必要です。手続き方法等の詳細については定期試験時間割発表時に掲示にてお知らせします。

なお、他キャンパス科目は、申し込み受付期間に、科目が設置されているキャンパスの学生部（矢上は学生課）で手続きをしてください。

追加試験を受験できない場合、再度の追加試験はありません（受験料の返却はできません）。

- ・ 病気、けが（要診断書—当該科目の試験日が含まれているもの）
- ・ 公共交通機関の遅延（要遅延証明書） *面接、受験料ともに不要
なお、大規模な公共交通機関の遅延が発生しているような場合、試験時間そのものをずらすこともあるので、まず、受験の努力をしてください。
- ・ 3親等以内の肉親の葬式（要会葬礼状等） *法事、結婚式は不可
- ・ 肉親の重大な病気・けが（要対象者の診断書）
- ・ 他キャンパスの定期試験科目との重複（他キャンパスの定期試験を優先し、総合政策学部・環境情報学部設置科目は、追加試験を申し込んでください。） *面接、受験料ともに不要
- ・ 最終学年の就職活動（採用選考の一環であるものに限る）に関しては、事前に事務室学事担当窓口にご相談してください。
- ・ その他、学習指導がやむを得ないと判断したもの
学習指導は、資料をもとに、本当に受験が不可能な状態であったか、総合的に判断します。

なお、アルバイト、ボランティア活動、各種大会出場などは追加試験許可の理由としては認められません。

(3) 不正行為

試験、レポートにおいて不正行為があった場合、教授会の定めるところにより厳しく処分されます。また、処分については実名による掲示を行います。定期試験、期末レポートの場合は、当該学期、全科目の単位の取得を認めません。あらゆる試験（授業内試験・小テスト等も含む）、あらゆるレポートおよび卒業プロジェクト・卒業制作についても同等の処分を行うことがあります。厳粛な態度で臨んでください。

試験中、他の学生と会話や物品のやりとりをする、持ち込みが許可されていない資料や本、電子機器類などの物品が見えたり、試験中取り出しやすい場所にある、当該学期の成績表が届く前にレポートを外部のWebに公開するなど、不正と紛らわしい行為も厳に慎んでください。

(4) レポート

プリントアウトや交通機関利用時のトラブルなども勘案し、時間に余裕を持って提出するようにしてください。

なお、レポートの1ページ目には、下の「レポートヘッダー」の項目を記載してから、本文を作成してください。

レポートヘッダー項目：

提出日付：●●●●●
授業科目名：●●●●● 担当者名：●●●●●
レポート課題：●●●●●
学部 学年：●● ●● ログイン名：●●●●●
学籍番号：●●●●● 氏 名：●●●●●

① レポート課題提出

レポート課題の提出は以下の方法があります。

- ① 授業内での提出
- ② 研究室への提出
- ③ SFC-SFS での提出
- ④ 学事担当窓口 レポート回収ボックス への提出

提出方法については各担当教員の指示に従ってください。

② 参考文献引用等

レポートの作成は、講義を理解し知識や問題解決の能力を身につける上で欠かせないものです。また、講義に対する理解度を教員が正しく評価し、成績を判断するための重要な要素です。したがって、レポートの作成にあたっては、定期試験と同様に不正な行為があってはなりませんし、その場合には厳しく処分されます。（期末レポートの場合は当該学期の履修科目は全てDとなり、あらゆるレポートについても同等の処分を行うことがあります。）

教員が学生のみなさんの理解度や達成状況を公平に正しく把握できるよう、レポートの作成にあたっては次の事項を注意してください。

○課題の指示を
十分に把握する

レポート課題では、レポートの作成にあたってどのようなことについて書くかの指示があることが通常です。課題によっては文献の調査が主で、いろいろな文献を調べなければならないものもあるでしょうし、反対に独自の発想を主体に述べるようなものもあります。求められている内容、意図を理解してレポートを作成するようにしましょう。

○盗用、盗作を
しない

あたりまえのことですが、レポートは自分の力で作成し、それによって評価されるものです。したがって他の人の書いた文章等を引用する場合は、その旨をきちんと断らなければなりません。そのような断りがなされていない場合、レポートを作成した人自身が作り出した内容だとして評価するのが前提です。したがって、断りなしに他人の成果を記載することは、不正行為にあたります。このような不正行為を避けるためには、正しく参考文献や資料を明記しなければいけません。

○参考文献・
資料等の記載方法

参考文献、資料等は読む人がわかるように記載しましょう。レポートの最後にまとめて記載する方法と、章ごとの終りに記載する方法が一般的です。

単行本：

著者『書名』、出版地：出版社、出版年。

例) 村井純『インターネット新世代』、東京：岩波書店、2010。

雑誌記事、学術論文：

著者「論文名」、『雑誌名』巻次、出版年、ページ。

例) 国領二郎「組織と混沌」、『組織科学』Vol. 43, No. 14, 2009, p. 29-42。

新聞記事：

著者（わかる場合）「記事タイトル」、『新聞名』、朝夕刊、版（地方版名など）、発行日、発行地：発行機関、掲載面。

例) 「地域発展で連携、SFCと藤沢市が協力協定 大学近くに宿泊施設計画」『朝日新聞』、朝刊、湘南・1地方、2009年10月20日、東京：朝日新聞社、31面。

Web ページ：

著者・発行者「文書名」、URL（閲覧日：日付）。

例) 慶應義塾大学湘南藤沢メディアセンター「ガジェット/フィード」
<http://www.sfc.lib.keio.ac.jp/gadget/>（閲覧日：2010年6月23日）。

放送作品等：

制作者（わかる場合）『タイトル』、放送局名、放送年月日。

例) 『爆笑問題のニッポンの教養：FILE077 U.S. I LOVE YOU』、NHK 総合、2009年6月30日。

映画、音楽作品等：

作者/監督名など『タイトル』、出版者名、制作年（必要な場合はメディア、分数なども記載）。

例) 滝田洋二郎監督『おくりびと』、セディックインターナショナル（発売元）/小学館、2009。
金森誠監督『還暦野球』2005年、DVCAM、30分。

美術作品等：

作者《作品の題名》制作年、（必要な場合はメディア、サイズなど）現存地/所蔵者。

例) 会田誠《あぜ道》1991年、パネル、和紙、岩顔料、アクリル絵具、73x52cm、豊田市美術館所蔵。

これらの記述方法は一例にすぎません。研究会等での指定がある場合はそちらを参照のこと。

参考：

佐藤望編著「アカデミック・スキルズ ー大学生のための知的技法入門」、東京：慶應義塾大学出版会、2006。

慶應義塾大学メディアセンター「KITIE」“情報を活用する”

<http://project.lib.keio.ac.jp/kitie/>

※レポートの書き方、引用・参考資料についての相談窓口

メディアセンター2階のレファレンスデスクに相談してください。

[相談時間] 平日9:15～17:00

○レポート文中での引用、参考の仕方

レポート文中で、参考資料の文章等をそのまま記載する場合には、引用だということがはっきりとわかるように、引用符『』で囲ったり、長い場合には、字下げした段落を設け、その後ろに引用のマーク（引用文献リストの文献番号など）を記載する必要があります。

また、そのままの引用でない場合も、「文献〇×では、〇〇〇と主張されているが、…」のように、文献や資料の内容に基づいていることがわかるようにしましょう。

○引用、参考資料を記載する必要がない場合

歴史的事実や常識、科学的な事項などの一般的に知られていることに関しては、参考資料を記載する必要はありません。しかしながら、次のような場合には、他人の考えや成果物を引用していないかどうかをよく考えてから参考資料や文献の明示を考えましょう。

- ・歴史的事実を並べたものでも、年表のように、作者の考え方や意図によって事項が選択されているものをそのまま記載する場合。
- ・事実の情報であっても、統計情報やデータとしてまとまっていて、それをそのまま使う場合。

○謝 辞

レポートを書くにあたって意見を聞いた、あるいは相談した人を挙げましょう。

Ⅳ. 成績

<p>(1) 学業成績 ① 通知</p>	<p>春学期は9月中旬、秋学期は3月中旬に保証人宛に「学業成績表」を郵送します。いかなる理由があっても再発行できませんので、取り扱いには十分注意してください。次学期の履修計画を立てる上で必要となりますので、保証人より速やかに受け取り、学習計画に役立ててください。成績証明書に取得した科目の成績が記載されるのは、翌学期以降となります。</p>
<p>② 成績質問制度</p>	<p>「学業成績表」の評語は確定したのですが、評語に対して確固たる根拠をもって問い合わせをしたいと考える者は、以下の通り手続きをしてください。この制度を利用せずに担当教員に直接質問できません。</p> <p>A. 必要書類</p> <p> a. 学生証</p> <p> b. 学業成績表 (原本：Web上に公開されている学業成績表のプリントアウトは不可)</p> <p> c. 当該科目のシラバスのプリントアウト</p> <p> d. 所定の「成績質問用紙」(事務室学事担当窓口で配付)</p> <p>B. 受付期間</p> <p> 保証人に送付する「学業成績表」に同封されている書面で確認してください。なお、当該学期で卒業を予定している者は、卒業発表後1週間以内に提出してください。</p> <p>C. 受付場所 事務室学事担当窓口</p> <p>D. その他</p> <p> 質問内容については、学習指導主任の承認を得てから、科目担当教員に問い合わせをし、回答があり次第、返信します。なお、質問内容によっては学習指導主任の承認を得られない場合があります。</p>
<p>③ 卒業発表</p>	<p>卒業発表はWebおよびA館1階掲示板にて行います。</p>
<p>(2) 学業成績表の見方 ① 成績評価</p>	<p>学業成績の評価は通常A、B、C、Dの4段階で示されます。A、B、Cは合格、Dは不合格です。評価のガイドラインは次のとおりです。</p> <p>A………特に優秀な者(成績最上位20%程度)</p> <p>B………優秀な者</p> <p>C………合格ラインに達している者</p> <p>D………合格ラインに達していない者</p> <p>このほか、科目によっては、P、Fの評語を設け、Pを合格、Fを不合格とする場合や、海外留学など他大学等で履修した授業科目を、G(認定)とする場合があります。「数学基礎」「囲碁」はP/Fの評語を使用しています。</p> <p>履修申告をした科目を学期途中で放棄した場合は、不合格のDまたはFがつきます。</p>
<p>② 判定欄</p>	<p>進 級 ……次学年に進級する者</p> <p>保 留 ……追加試験の結果により判定が決定する者</p> <p>原級(留学)……学則による「留学」が認められた者で、今学期は進級の対象とはなりません。</p> <p>原級(休学)……学則による「休学」が認められた者で、今学期は進級の対象とはなりません。</p> <p>原 級 ……取得単位数不足のため現在の学年に留まります。</p> <p>空 欄 ……今学期は進級判定の対象とはなりません。</p>

X. 休学・退学・留学

(1) 休学

① 「休学願」の提出

休学は学期（春学期・秋学期）ごとの申請となります。

事務室学事担当窓口で交付する所定の「休学願」に本人・保証人の自署・押印の上、学部学習指導主任との面接後、事務室学事担当窓口に提出してください。本人と保証人の筆跡・印鑑が同一である場合は受理できません。

病気・怪我の場合は、医師の診断書、語学等留学の場合は、受入許可証が必要です。休学した学期は進級や卒業に必要な在学期間には算入されません。休学が次の学期に及ぶときには、改めて許可が必要です。再度「休学願」を提出してください。

「休学願」の提出後、電話にて保証人の意志確認を行います。詳細は手続き時および休学願裏面にて確認してください。

	提出期限	休学期間
春学期	5月末日（必着）	4月1日から9月21日
秋学期	11月末日（必着）	9月22日から3月31日

② 学習指導主任との 面接

「所属学部の学習指導主任」（A館の掲示または以下URL参照）に各自で連絡のうえ面接を受け、承認印を受けなければなりません。

http://www.sfc.keio.ac.jp/students_soukan/class/academicadvisors.html

③ 就学届

復学する際は、速やかに所定の「就学届」を提出してください。「就学届」は各学期成績表送付時に保証人宛に同封いたします。

なお、病気・怪我による休学から復学する場合は、医師による快復した旨の診断書が必要です。

④ 学費

【2009年度以降第1学年入学者以外】

休学期間中の学費は全額納入しなければなりません。以下の対象者は、授業料等を減免することができます。

- A 減免を受けようとする者は、1年以上の長期にわたり入院または通院している者ならびに自宅療養をしている者で、休学の2年目以降の者でなければならない。
- B 母国において兵役義務により休学する者。この場合に限り1年目から減免する。（「慶應義塾大学授業料等減免規程」第2条（対象）より抜粋）

【2009年度以降第1学年入学者】

取り扱いは、次のとおりとなります。

- A 入学から1年間を除く休学期間中は授業料および実験実習費（以下「授業料等」という。）を免除します。
- B 本大学での学習を奨励するため、入学から1年間の学費は全額納入しなければなりません。なお、休学理由が次に該当すると認められた場合は、入学から1年間についても「授業料等」を免除されることが可能です。
 - (a) 母国における兵役義務により休学を認められた場合。
 - (b) 正課または課外活動中の事故による傷害で休学を認められた場合。

⑤ 健康診断について

春学期休学のために4月に実施される健康診断を受診できなかった場合は、9月のガイダンス期間中に実施される9月入学生のための健康診断を受診してください。

(2) 退学

① 「退学届」の提出

所定の「退学届」(事務室学事担当窓口で配付)に本人・保証人の自署・押印の上、学生証とともに事務室学事担当窓口へ提出してください。筆跡、印鑑が同一である場合は受理はできません。なお、学習指導主任による面接が必要となることがあるので、「退学届」の提出前に必ず事務室学事担当窓口で相談してください。

退学年月日は、授業料が全納されている場合、本人の希望日となります(通常は春学期末9月21日、秋学期末3月31日)。学期末以前の場合は、当該学期の取得単位は抹消されます。

「退学届」の提出後、電話にて保証人の意思確認を行います。なお、退学届を郵送された場合は、本人の意思確認も行います。

② 処分退学

【学部学則第156条・第188条】

【学部学則第156条(抜粋)】 2007年度以降入学者用

① (省略)

② (前略) 総合政策学部および環境情報学部では、同一学年に4学期以上在学し、進級および卒業し得ない者は退学させる。

【学部学則第156条(抜粋)】 2006年度以前入学者用

① 同一学年に2年在学し、なお進級し得ない者並びに同一学部に8年在学し卒業し得ない者は退学させる。

② 前項の規定にかかわらず、総合政策学部・環境情報学部では、第1学年に4学期在学し第2学年に進級し得ない者、第2学年に4学期在学し第3学年に進級し得ない者、第3・第4学年併せて8学期在学し卒業し得ない者は退学させる。

【学部学則第188条】

この学則若しくはこれに基づいて定められた学内諸規則に違反し、または学業を怠り、気品を害ね、その他学生としての本分にもとる行為のあった者については、懲戒として情状により譴責、減点、停学または退学の処分をする。ただし、懲戒退学は、次の各号の一つに該当する者に対してのみ、これを命ずるものとする。

- 1 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- 2 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- 3 正当な理由がなくて出席常でない者
- 4 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

(3) 留学

毎年90校を越える外国の大学との間で学生交換を実施しています(塾派遣交換留学制度)。これは義塾と協定大学とが双方の在学学生に、1年間外国の大学生生活を経験する機会を提供し、国際交流を推進し、国際感覚の育成と視野の拡大を目指そうとするものです。

SFCからは毎年30名を越える学生が交換留学に参加しています。また、交換留学以外にも、奨学金や私費により毎年数名の学生が留学しています。「留学」には次の3種類があります。

- ① 交換協定に基づく留学(交換留学)
- ② 外国政府、大学、および公共性が強く、慶應義塾が適当と認めた公共団体の奨学制度による留学(奨学金留学)
- ③ 上記以外の留学(私費留学)
語学留学は、通常休学扱いとなります。

留学を希望する場合は、事務室で配布している「留学のてびき」をよく読み、学内で開催される「留学説明会」等にも参加するようにしてください。

<留学前の手続きについて>

学内において「留学」の認定を受けるためには、遅くとも出発の2か月前までに「国外留学申請書」を提出し、教授会の承認を受ける必要があります。詳細は「留学のてびき」またはSFC事務室学事担当窓口で確認してください。

留学の種類に関係なく留学許可が得られた時点で、留学後には留学期間が在学期間に算入されることを想定し、進級・卒業条件、単位取得状況を必ず確認してください。また、第4学年1学期目が留学期間に含まれる場合には、「卒業プロジェクト1」について学事担当窓口で必要な手続きを行わなければなりません。

<留学後の手続きについて>

帰国後、所定の「就学届」をSFC事務室学事担当まで提出してください。

【外国科目認定並びに在学期間算入申請について】

留学期間を在学期間に算入（1年間を限度とする）する手続きを行います。外国科目認定用紙と以下の資料を留学中から準備し、帰国後1ヶ月以内に提出してください。留学先で履修したすべての科目（DROP, WITHDRAWAL 含む）について、申請しなければなりません。

- (a) 外国科目認定用紙（SFC公式ウェブサイトよりダウンロードできます）
- (b) 成績証明書（成績表）
- (c) 講義要綱・シラバス
- (d) 授業内容の記録・学事日程・履修案内・時間割・テキスト・ノート・レポート等

①留学先で修得した単位は、在学中2学期分（1学期間算入の場合、上限20単位、自由科目を含めて30単位）まで、他学部等設置科目または自由科目（認定科目名は留学先で修得した科目名）として認定します。

認定単位数の最低講義時間数条件は以下のとおりです。ただし、実験・実習・演習科目は講義科目の半分の時間数として扱われます。

- 1単位 60分×15回＝900分以上
- 2単位 90分×15回＝1,350分以上
- 3単位 90分×15回×1.5＝2,025分以上
- 4単位 90分×15回×2＝2,700分以上

②外国語科目については、SFCで開講されている語種は取得済の科目のレベルよりも高いと学習指導が判断した場合のみ、他学部等設置科目として卒業に必要な単位として認定されることがあります。取得済科目と同等またはそれよりもレベルが低いと判断した場合は、自由科目として認定されます。単位数に関しては、留学先の授業レベルやSFCで取得済みの外国語科目によって、講義科目の半分の時間数として扱われる場合があります。開講されていない語種については他学部等設置科目として卒業に必要な単位として認定されることがあります。いずれの場合も自由科目での認定は可能です。

③ウェルネス科目は自由科目としてのみ認定されることがあります。

④評価は、単位を修得したすべての科目について「G」で認定されます。修得できなかった科目（DROP, WITHDRAWAL 等）は、「F」で認定されます。

⑤2006年度以前入学者で留学等、特に認められた場合には、卒業要件を満たしていても、修業年限が8年を超えないかぎり、1年だけ在学期間を延長することができます。希望をする場合は就学届提出時に、詳細について必ず学事担当窓口で確認してください。

⑥留学のために4月に実施される健康診断を受診できなかった場合は、9月のガイダンス期間中に実施される9月入学生のための健康診断を受診してください。

a. 塾派遣交換留学

本学では、世界各地の大学との間で学生交換を実施しており、それぞれに1年間、主に学部3・4年生が派遣されています。2011年度の交換留学協定校は、次を予定しています。

- アメリカ**：アレグニー大学、ボストン大学、ブラウン大学、
プリンマー大学、カリフォルニア大学EAP、
カーネギーメロン大学、ダートマス大学、ジョージタウン大学、
ハワイ大学マノア校、
イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校
イリノイ・ウェズリアン大学、マンハッタンビル大学、
メリーランド大学カレッジパーク校、ミドルベリー大学、
ノースカロライナ大学チャペルヒル校、ライス大学、
ワシントン大学、ウェスタンミシガン大学、
ウィリアム・アンド・メアリー大学、
ウィスコンシン大学マディソン校
- カナダ**：ブリティッシュ・コロンビア大学、マギル大学、
トロント大学、ヨーク大学、クィーンズ大学、CREPUQ (クレプク)
- イギリス**：バーミンガム大学、カーディフ大学、エジンバラ大学
ロンドン大学ロイヤルホロウエー校、
ロンドン大学東洋アフリカ学院、マンチェスター大学、
シェフィールド大学
- アイルランド**：ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン
- オーストラリア**：オーストラリア国立大学、メルボルン大学、
ニューサウスウェールズ大学、クィーンズランド大学、
シドニー大学
- ニュージーランド**：オークランド大学、オタゴ大学
- フランス**：エセック経済商科大学院大学、パリ政治学院、リヨン第3大学、
ニース大学、パリ第1大学、パリ第3大学、
トゥールーズ社会科学大学、フランス高等師範学校、
HEC経営大学院
- ドイツ**：アーヘン工科大学、ベルリン自由大学、ボン大学、ケルン大学
ドレスデン工科大学、デュッセルドルフ大学、ハレ大学、
ザールラント大学、ジューゲン大学、ダルムシュタット工科大学、
WHUオットー・バイスハイム経営大学、ミュンヘン工科大学
- オーストリア**：ウィーン経済・経営大学
- オランダ**：アムステルダム大学、エラスムス大学ロッテルダム、ライデン大学
- スウェーデン**：ヨーテボリ大学、ウプサラ大学、ルンド大学、王立工科大学
- ノルウェー**：オスロ大学、ベルゲン大学
- トルコ**：ボアジチ大学
- 中国**：香港中文大学、香港大学、マカオ大学、復旦大学、南開大学、南京大学
北京大学、浙江大学、中国人民大学、西安交通大学、清華大学
- 台湾**：国立台湾大学、国立政治大学
- 韓国**：梨花女子大学、延世大学、高麗大学、ソウル国立大学
- タイ**：チュラロンコーン大学、タマサート大学
- シンガポール**：シンガポール国立大学、シンガポールマネジメント大学
- インドネシア**：インドネシア大学
- アルゼンチン**：トルクアト・ディ・テラ大学
- イタリア**：ヴェネツィア大学、ボッコーニ大学、ナポリ東洋大学
- スイス**：ベルン大学、チューリヒ大学、ジュネーブ大学
- ギリシア**：アテネ大学
- スペイン**：マドリード・コンプルテンセ大学、
ボンペウ・ファブラ大学

その他、次のような奨学金給費留学生（大学院在籍者対象、義塾に特別枠が与えられており、学内選考後に各団体へ推薦される）が選出されています。

- ・ドイツ学術交流会（DAAD）留学生
- ・イタリア文化会館／イタリア政府奨学金留学生（教員の派遣がない年度のみ）
- ・ルノー財団奨学金

詳細については、国際センターから毎年9月下旬に発行される「慶應義塾派遣交換留学生募集要項」および国際センターホームページ＜<http://www.ic.keio.ac.jp/>＞をご覧ください。

b. 短期在外研修 プログラム

国際センターでは、毎年夏季休業期間中に全学部生・大学院正規生（通信教育部を除く）を対象として、英国「ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ」「オックスフォード大学リンカーンコレッジ」および米国「ウィリアム・アンド・メアリー大学(W&M)」「ワシントン大学」において夏季講座を開講しています。いずれも受講先大学の教員が直接指導にあたり、参加者の専門分野の知識を深めることを目的としていますが、ダウニングは英語による講義を中心に、オックスフォードはディベートや演劇のワークショップにも重点が置かれ、W&Mはグループリサーチを特徴とし、ワシントンは環境学をテーマとして体験学習旅行も含まれています。通常教室内で講義を受けるのとは異なり、自ら海外生活を経験しながら学ぶことで、国際性豊かな学生の育成を目指しています。

なお、SFCにおいて本夏季講座は、各々「他学部等設置科目」あるいは創造技法言語コミュニケーション科目「英語」（ダウニング、ワシントン）、創造技法言語コミュニケーション科目「英語」（W&M）の単位（いずれも4単位）として認められることがあります。

詳細については、プログラムガイダンス(SFC 4月4日)に参加するか、国際センターホームページ<<http://www.ic.keio.ac.jp/>>をご覧ください。（「海外に関心のある塾生へ」から「短期プログラム」）

また、春季休業中には英語によるEUに関する諸問題を扱う「パリ政治学院春季講座」と、韓国の政治・経済・社会・文化を学ぶ「延世大学春季講座」（学部生のみ）があります。「パリ政治学院春季講座」は、創造技法言語コミュニケーション科目「英語」として認められることがあります。

講座によって履修申告可能な分野は異なりますので、下記を参照してください。

「ウィリアム・アンド・メアリー大学」「ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ」「ワシントン大学」「パリ政治学院」は、創造技法言語コミュニケーション科目「英語」として申告できます。

講座によって履修申告可能な分野は異なりますので、以下を確認のうえ春学期に履修申告してください。

- ①ウィリアム・アンド・メアリー大学
B欄分野「61:創造技法言語コミュニケーション科目英語」または「11:自由科目」
- ②ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ
B欄分野「21:他学部等設置科目」または「61:創造技法言語コミュニケーション科目英語」または「11:自由科目」
- ③ワシントン大学
B欄分野「21:他学部等設置科目」または「61:創造技法言語コミュニケーション科目英語」または「11:自由科目」
- ④オックスフォード大学リンカーンコレッジ
B欄分野「11:自由科目」
- ⑤パリ政治学院
B欄分野「61:創造技法言語コミュニケーション科目英語」または「11:自由科目」
- ⑥延世大学
B欄分野「11:自由科目」